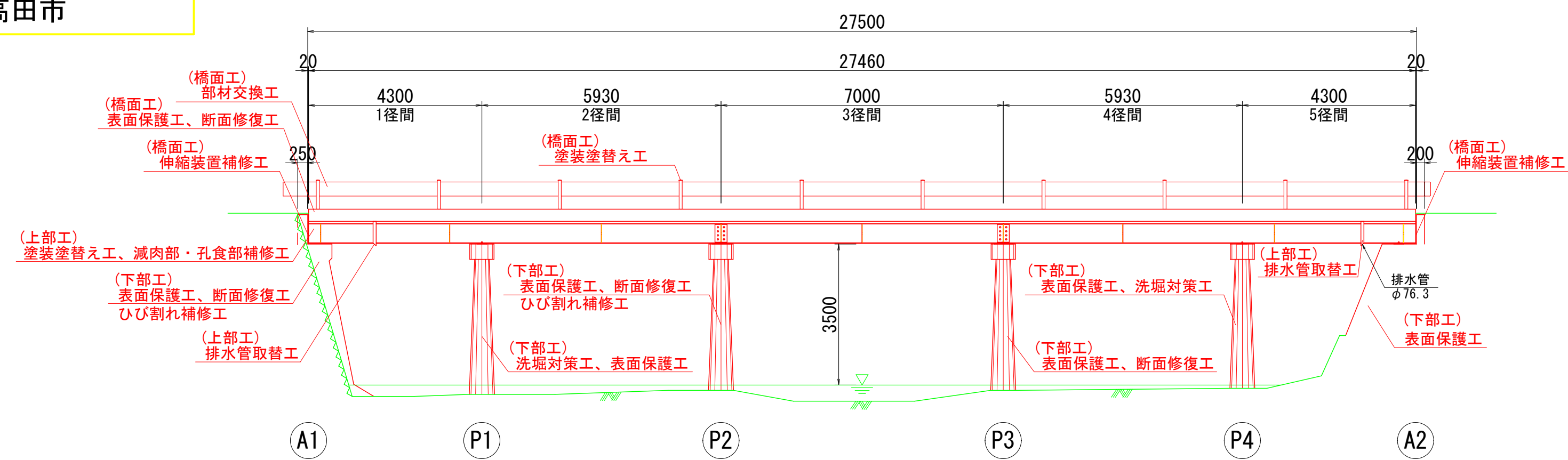


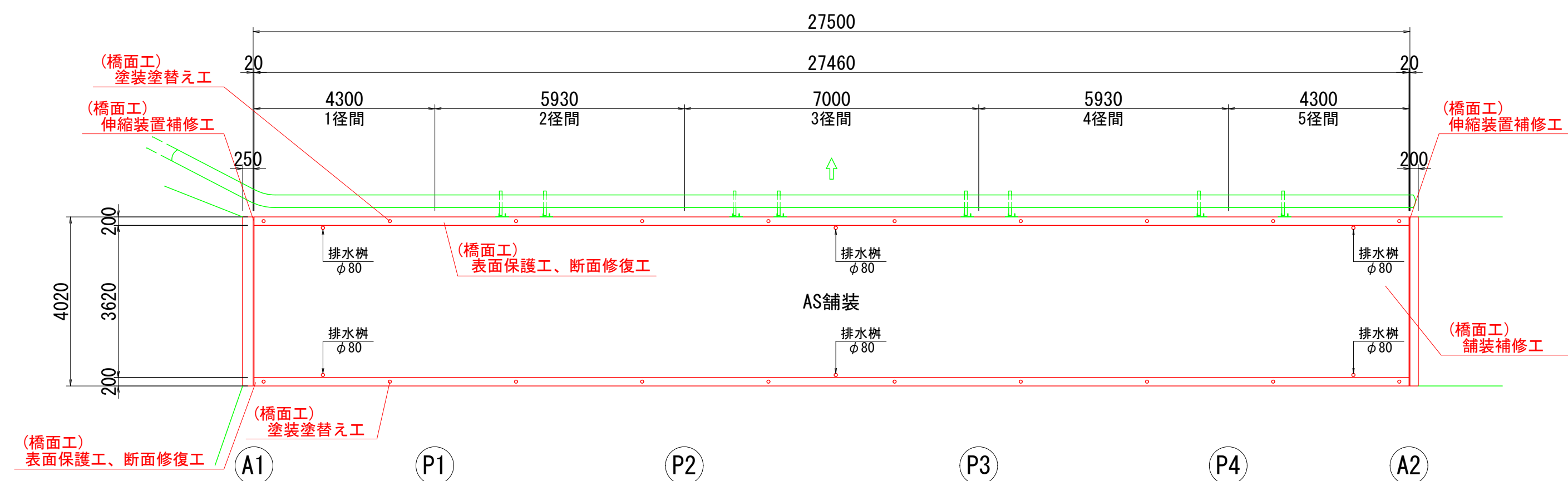
図面番号	1 / 12	縮尺	1 : 100
工 事 名	市道野々原行田線（共栄橋）補修工事		
種 別	共栄橋 補修一般図	番 号	/
路線名	野々原行田線		
工事箇所	安芸高田市 高宮町 羽佐竹		
安芸高田市			

共栄橋 補修一般図 S=1:100

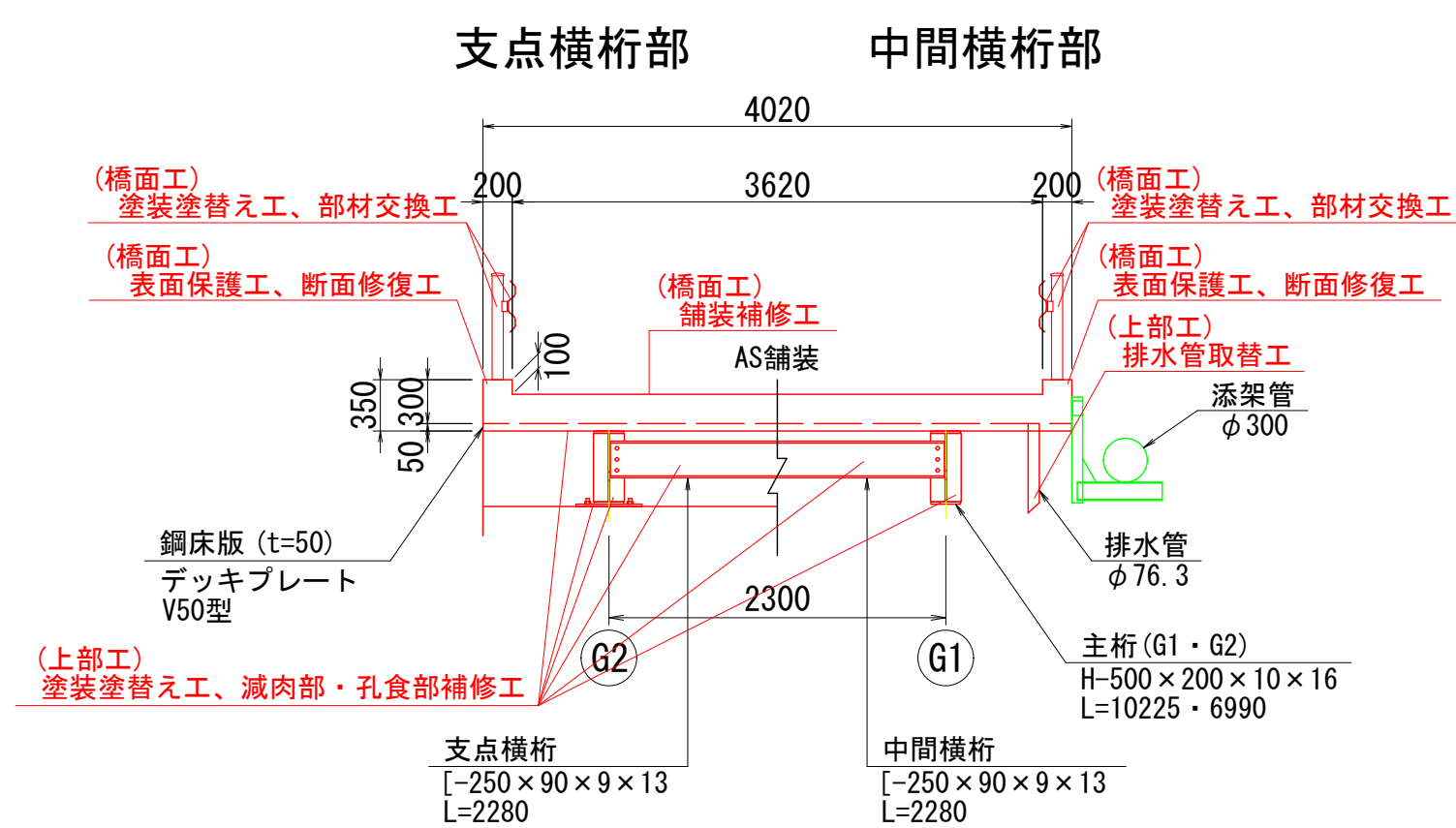
縦断面図



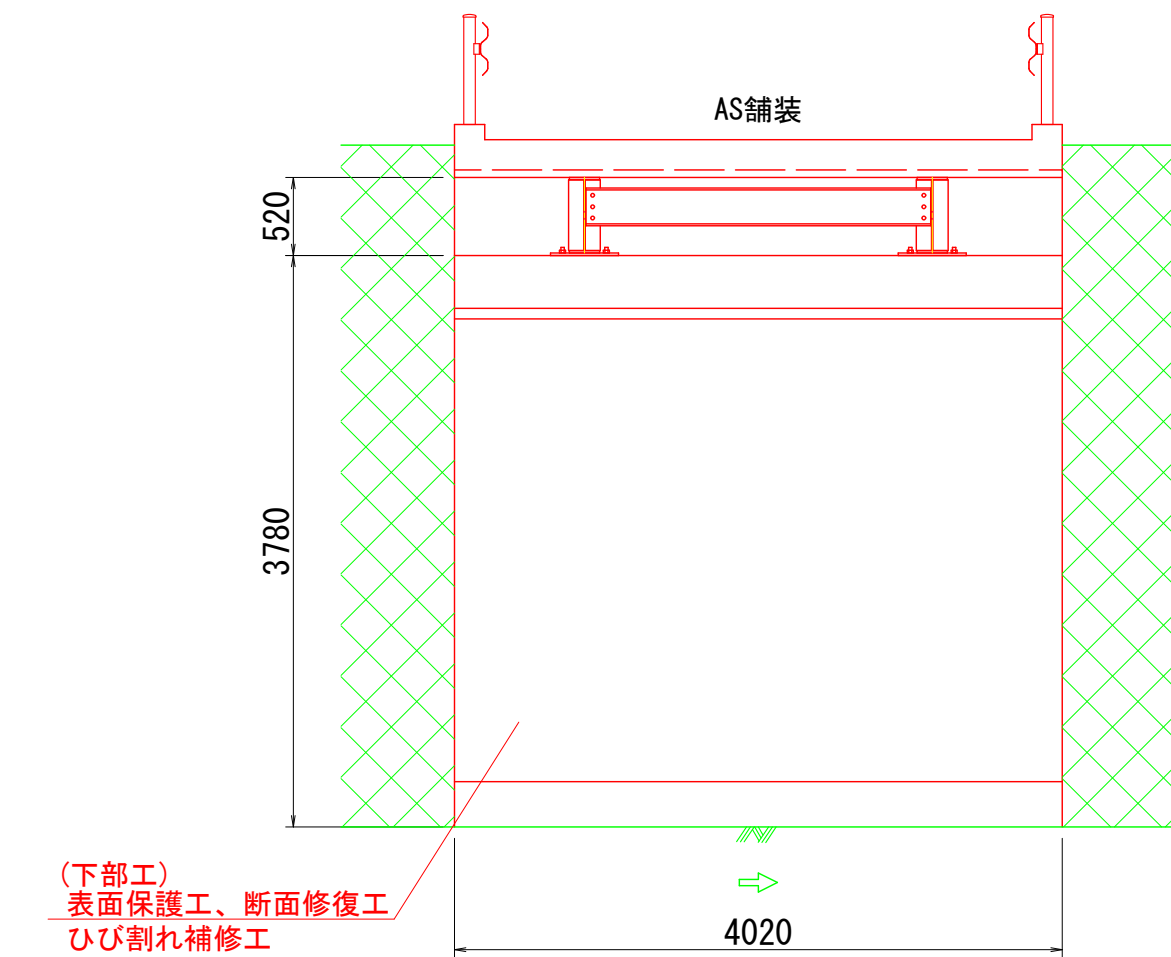
平面図 (橋面)



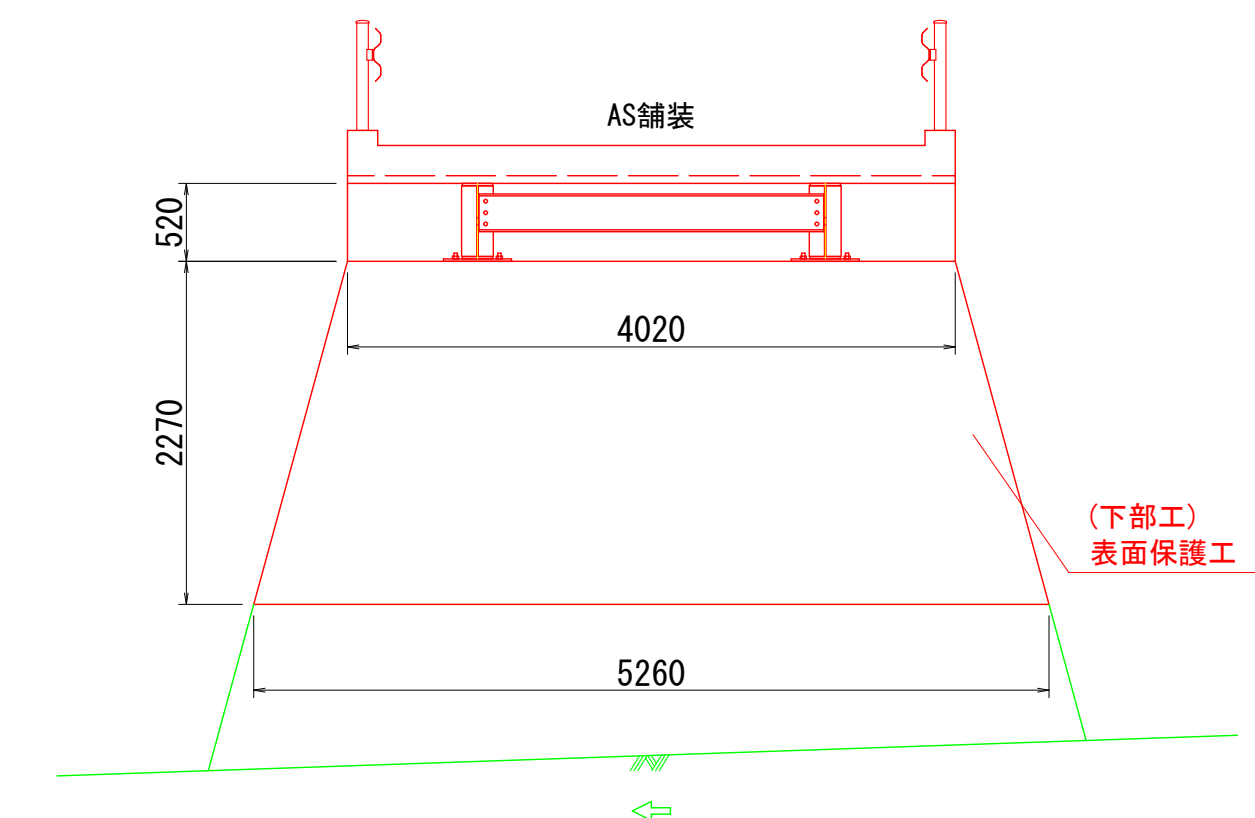
横断面図 S=1:50



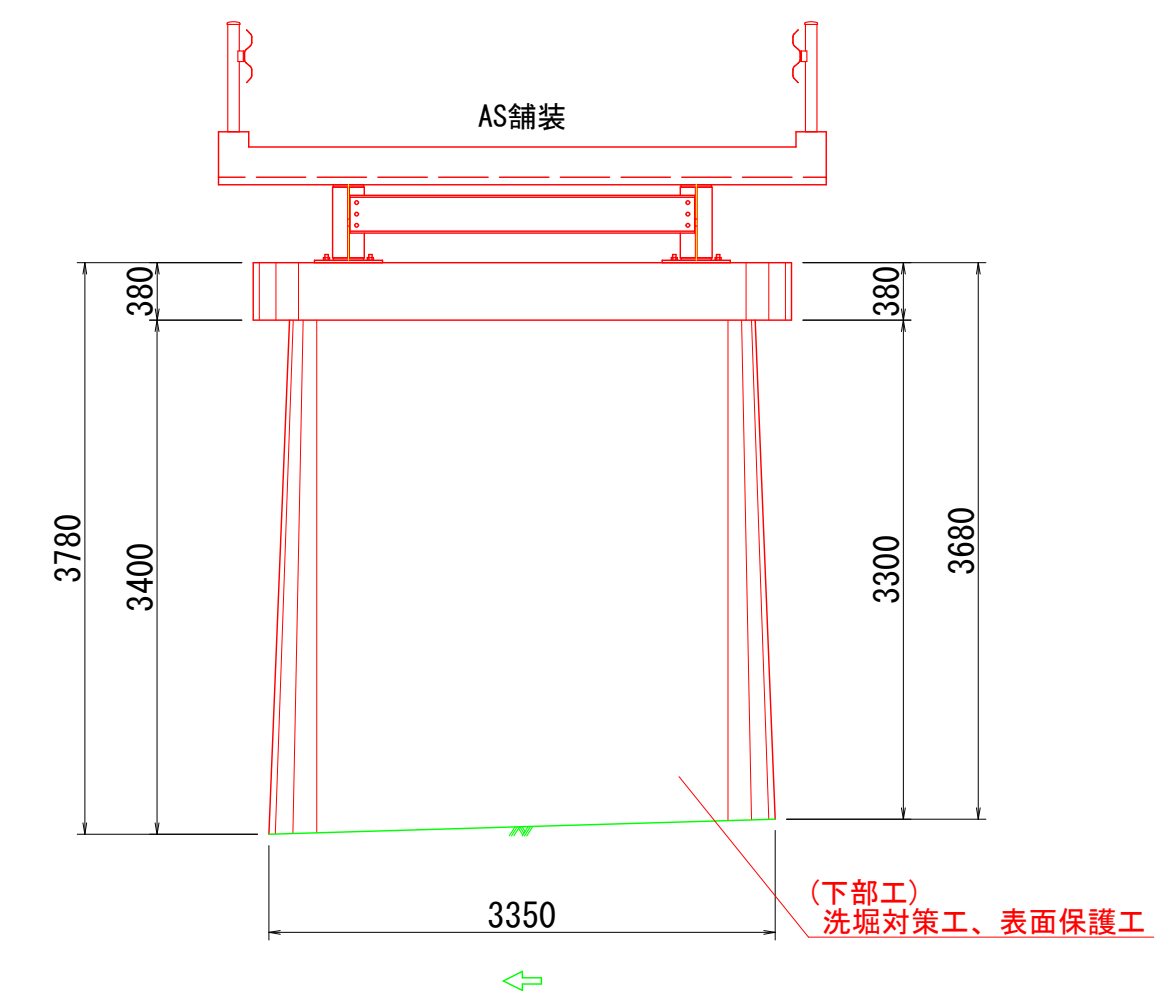
A1橋台 S=1:50



A2橋台 S=1:50



P1橋脚 S=1:50

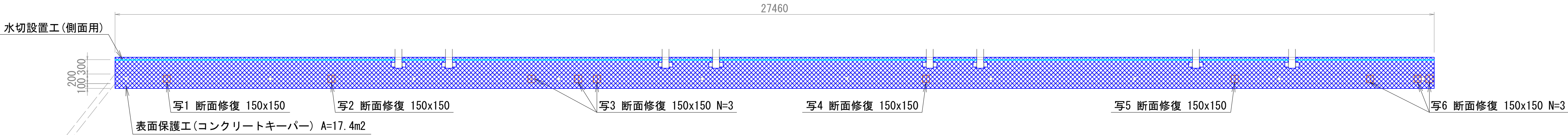


図面番号	2 / 12	縮尺	1 : 50
工 事 名	市道野々原行田線（共栄橋）補修工事		
種 別	共栄橋 上部工補修図	番 号	／
路線名	野々原行田線		
工事箇所	安芸高田市 高宮町 羽佐竹		
安芸高田市			

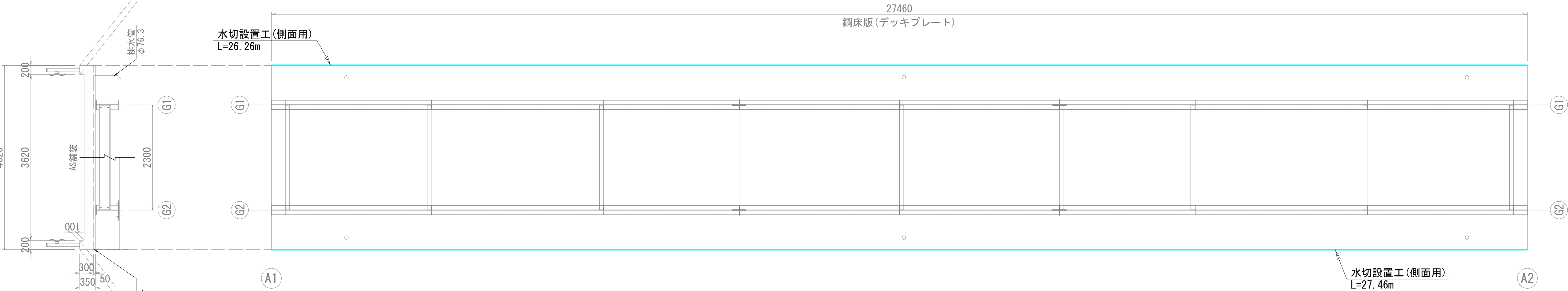
共栄橋 上部工補修図 S=1:50

床版・地覆

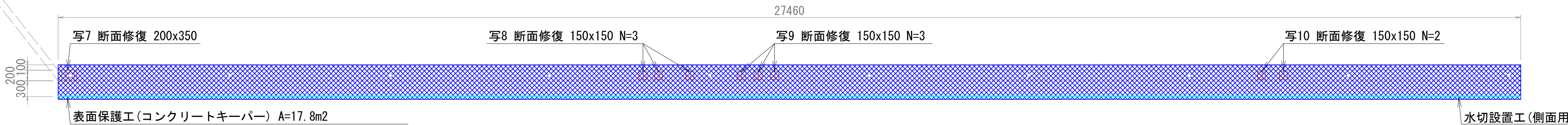
左側地覆展開図



平面図（床版下面）

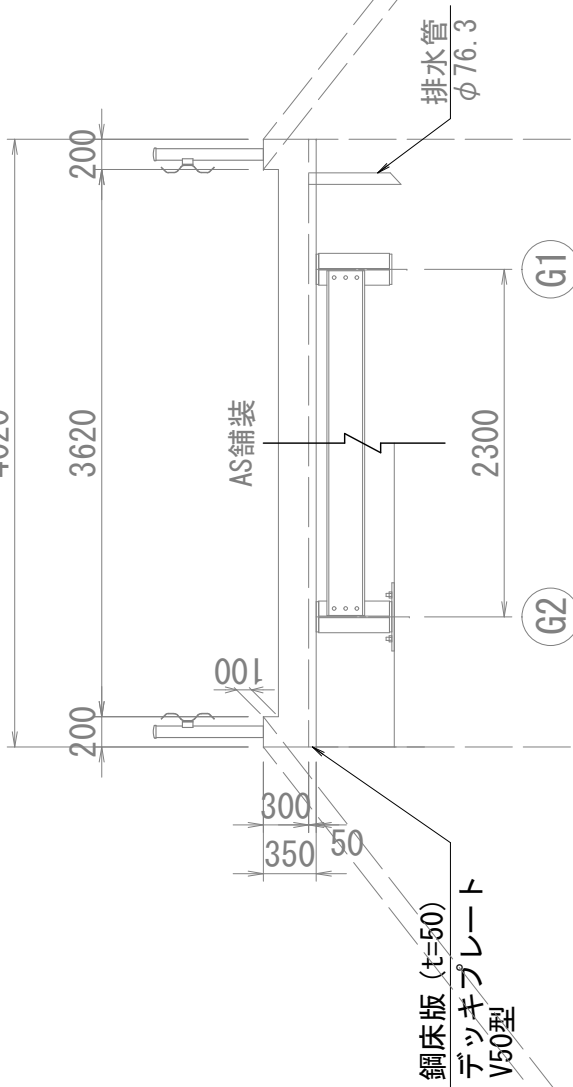


右側地覆展開図



横断面図

中間横桁部
支点横桁部



凡 例		凡 例	
記 号	損 傷 種 類	記 号	損 傷 種 類
	ひび割れ (W=0.2mm未満)		摩 耗・浸 食
	ひび割れ (W=0.2mm~1.0mm未満)		豆 板
	ひび割れ (W=1.0mm~5.0mm未満)		析 出 物
	ひび割れ (W=5.0mm以上)		漏 水・滞 水
	析出物を伴うひび割れ		腐 食
	う き		防食機能の劣化
	剥 離		そ の 他
	鉄筋露出	写 1	写真番号
	欠 損		

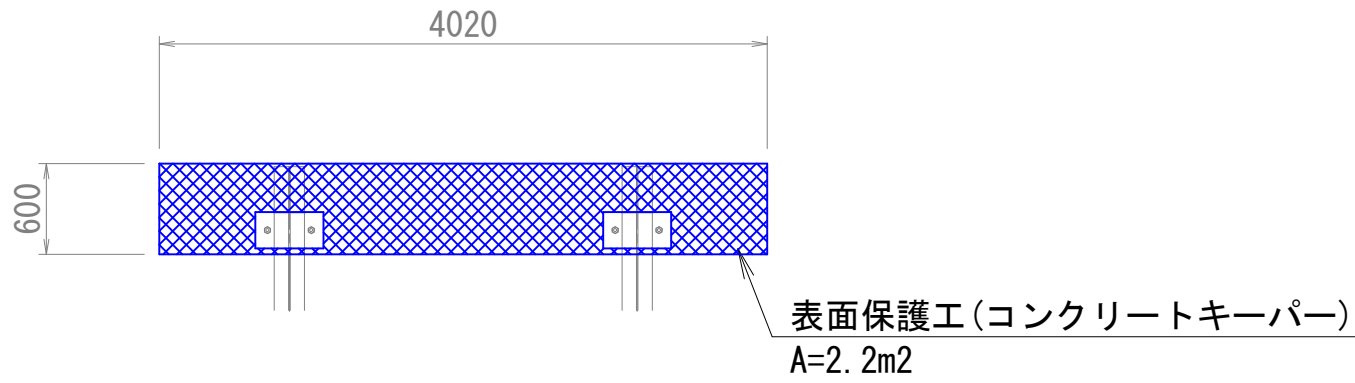
図面番号	3 12	縮尺	1 : 50
工 事 名	市道野々原行田線（共栄橋）補修工事		
種 別	共栄橋 下部工補修図（1）	番 号	／
路線名	野々原行田線		
工事箇所	安芸高田市 高宮町 羽佐竹		
安芸高田市			

共栄橋 下部工補修図（1） S=1:50

A1橋台・A2橋台

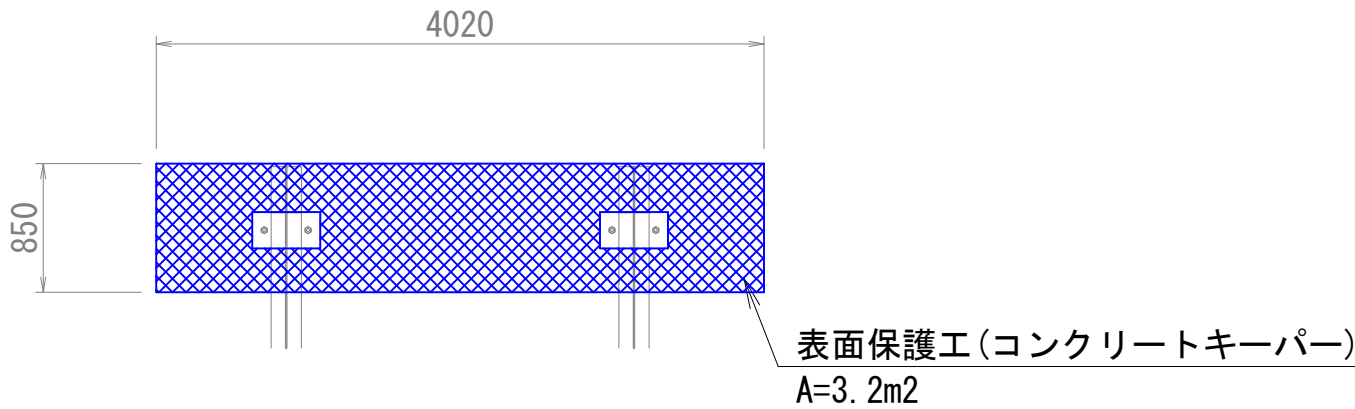
A1橋台

平面図(沓座面)



A2橋台

平面図(沓座面)

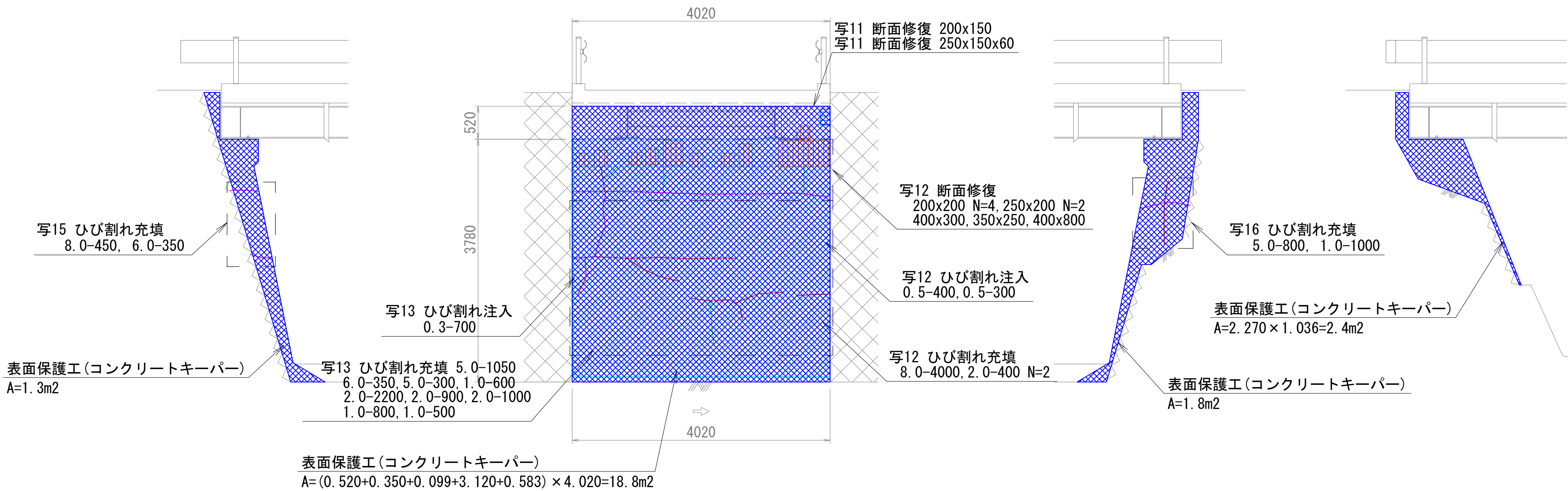


側面図(上流側)

正面図

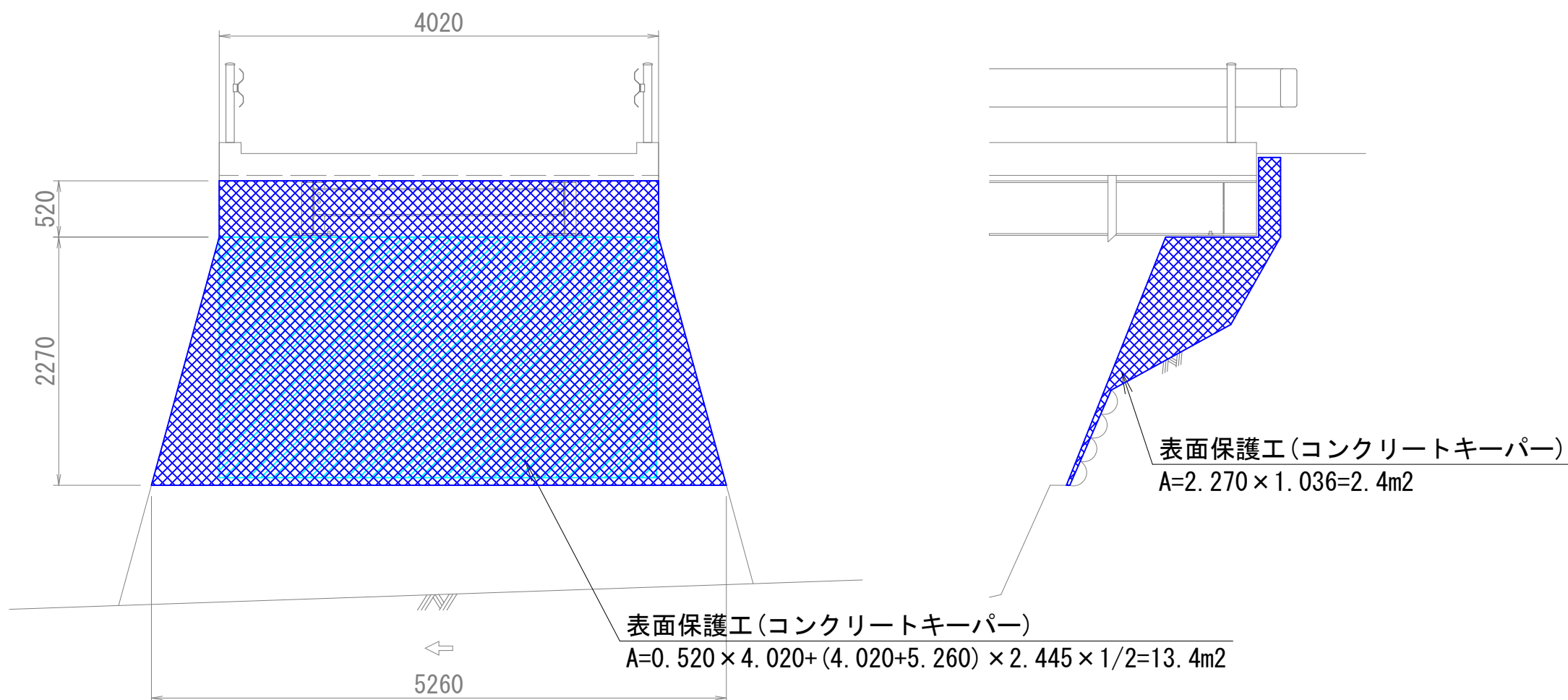
側面図(下流側)

側面図(下流側)



正面図

側面図(上流側)



凡 例			
記 号	損 傷 種 類	記 号	損 傷 種 類
	ひび割れ (W=0.2mm未満)		摩 耗・浸 食
	ひび割れ (W=0.2mm～1.0mm未満)		豆 板
	ひび割れ (W=1.0mm～5.0mm未満)		析出物
	ひび割れ (W=5.0mm以上)		漏 水・滞 水
	析出物を伴うひび割れ		腐 食
	う き		防食機能の劣化
	剥 離		その他
	鉄筋露出	写 1	写真番号
	欠 損		

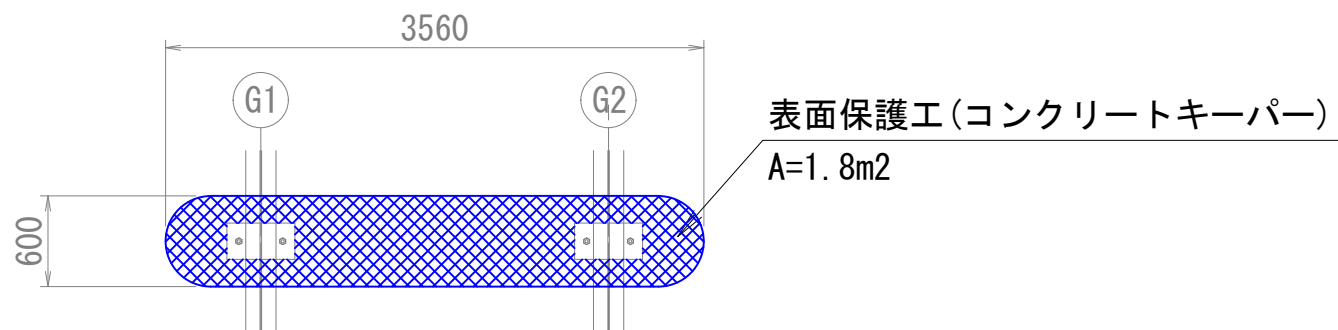
図面番号	4 12	縮尺	1 : 50
工 事 名	市道野々原行田線（共栄橋）補修工事		
種 別	共栄橋 下部工補修図（2）	番 号	／
路線名	野々原行田線		
工事箇所	安芸高田市 高宮町 羽佐竹		
安芸高田市			

共栄橋 下部工補修図（2） S=1:50

P1橋脚・P2橋脚

P1橋脚

平面図（沓座面）



表面保護工（コンクリートキーパー）

P1橋脚

側面図（下流側）

A: $0.942 \times 0.380 + 0.162 = 0.5m2$
B: $(0.565 + 0.990) \times 1/2 \times 3.403 = 2.6m2$

側面図（上流側）

A: $0.942 \times 0.380 + 0.162 = 0.5m2$
B: $(0.565 + 0.980) \times 1/2 \times 3.303 = 2.6m2$

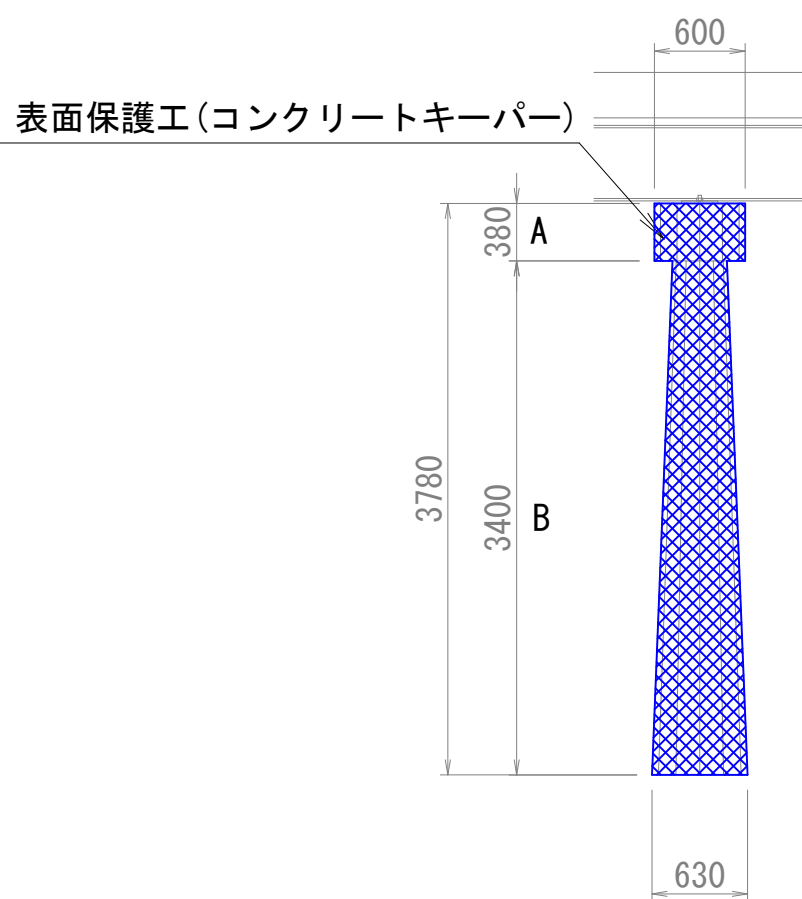
正面図（起点側）

A: $0.380 \times 2.960 + 0.326 = 1.5m2$
B: $(3.043 + 3.303) \times 1/2 \times 2.720 = 8.6m2$

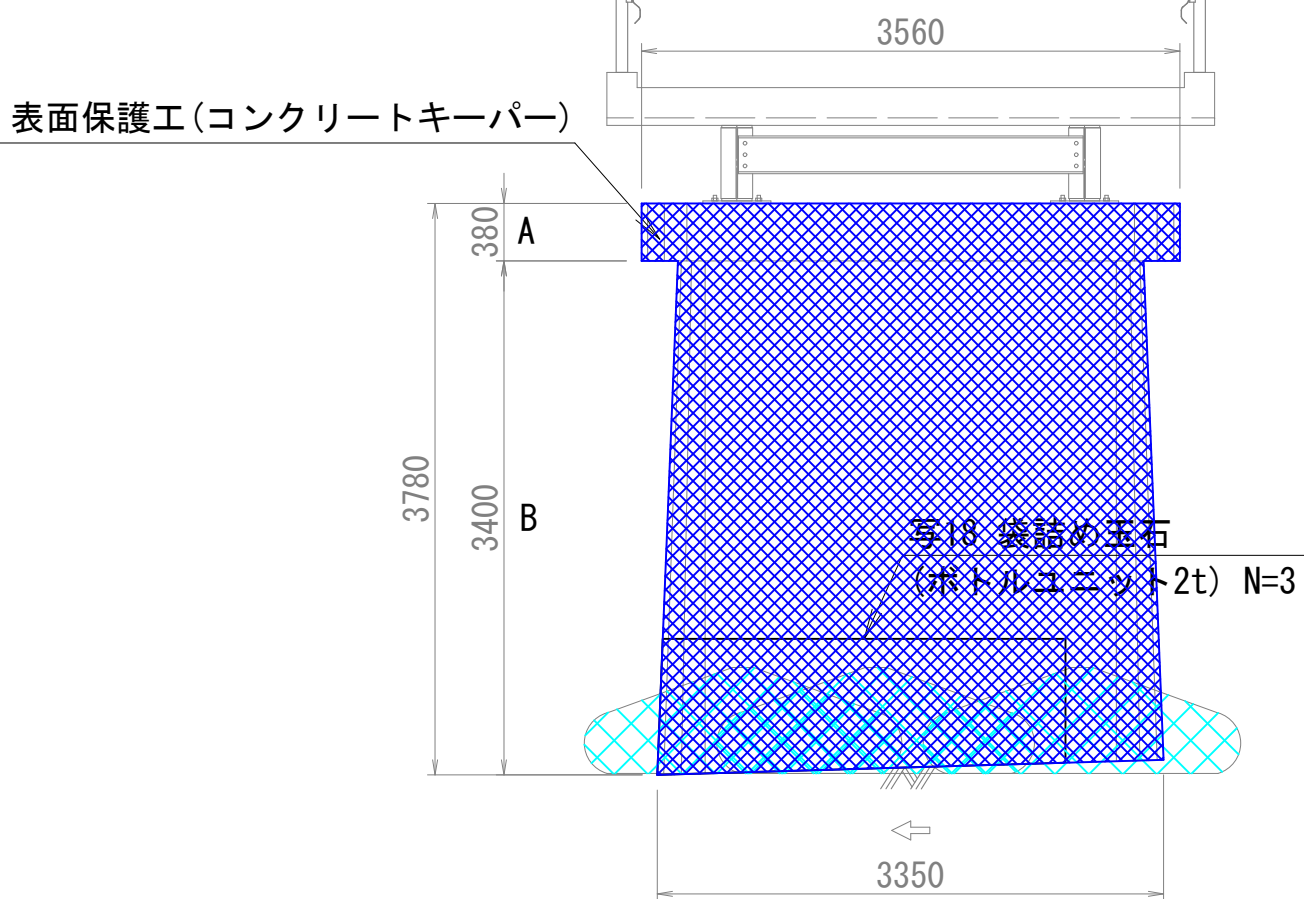
正面図（終点側）

A: $0.380 \times 2.960 + 0.326 = 1.5m2$
B: $(3.303 + 3.403) \times 1/2 \times 2.720 = 9.1m2$

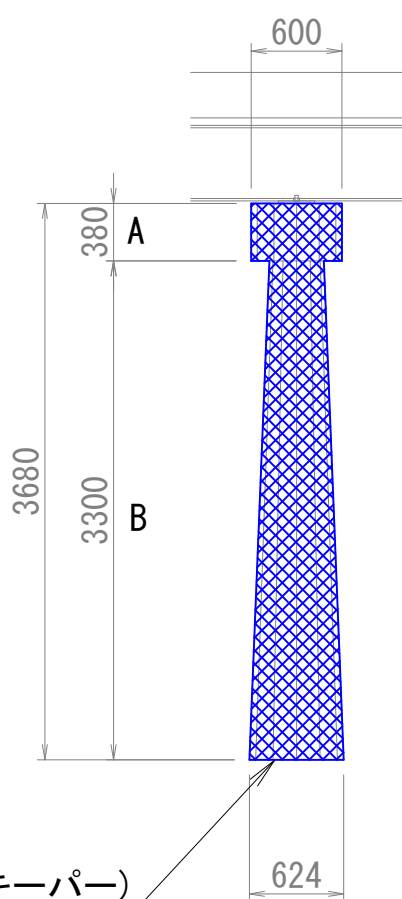
側面図（下流側）



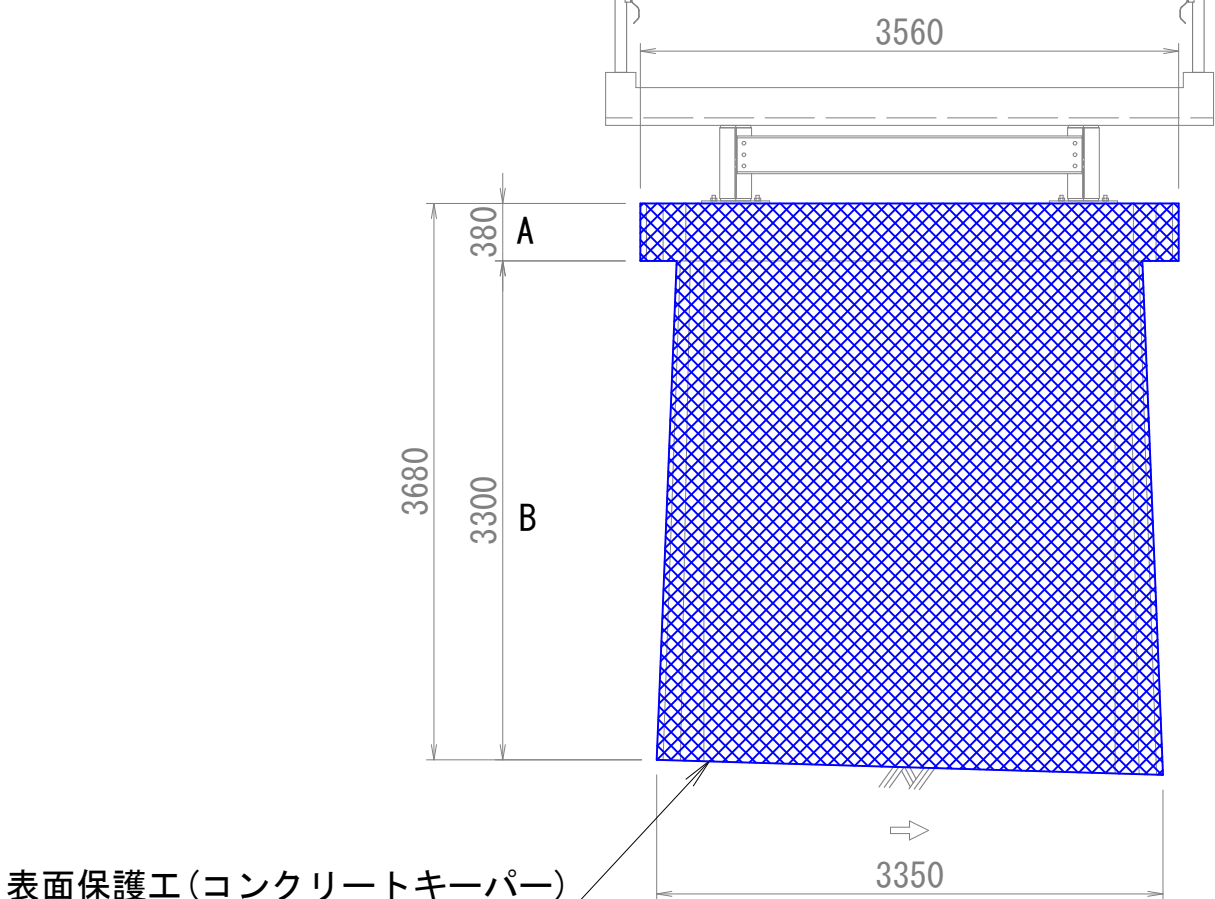
正面図（起点側）



側面図（上流側）

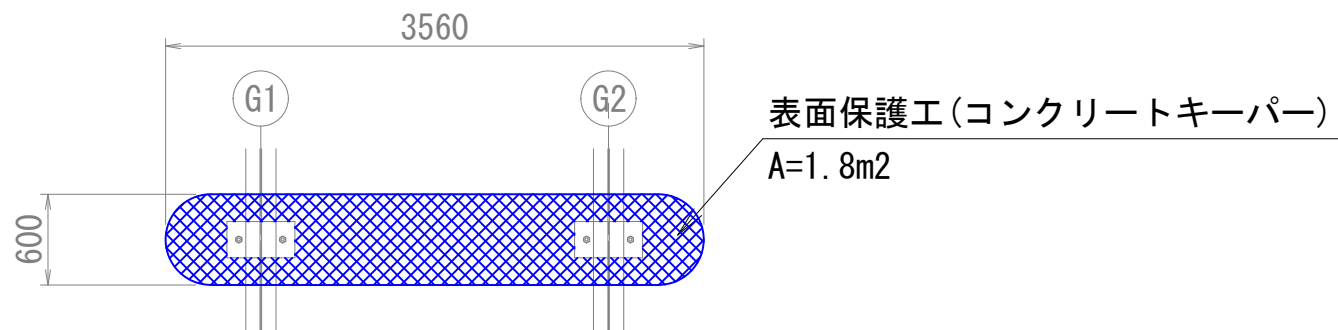


正面図（終点側）



P2橋脚

平面図（沓座面）



表面保護工（コンクリートキーパー）

P2橋脚

側面図（下流側）

A: $0.942 \times 0.380 + 0.162 = 0.5m2$
B: $(0.565 + 0.974) \times 1/2 \times 3.303 = 2.5m2$

側面図（上流側）

A: $0.942 \times 0.380 + 0.162 = 0.5m2$
B: $(0.565 + 0.974) \times 1/2 \times 3.203 = 2.5m2$

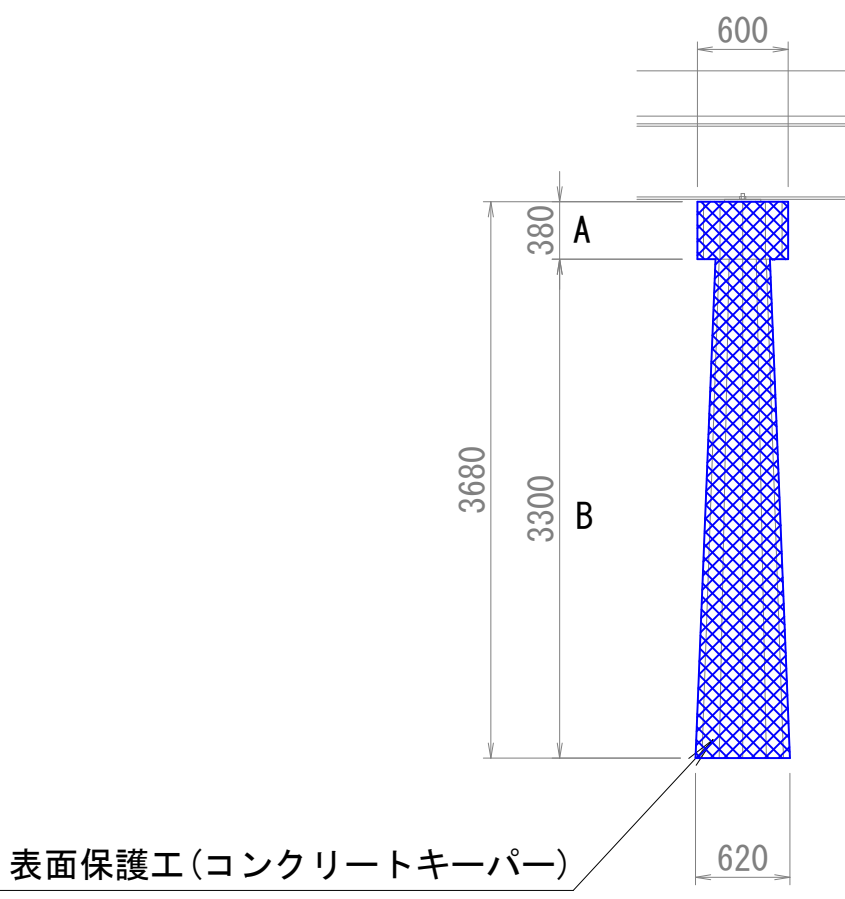
正面図（起点側）

A: $0.380 \times 2.960 + 0.326 = 1.5m2$
B: $(3.303 + 3.203) \times 1/2 \times 2.720 = 8.8m2$

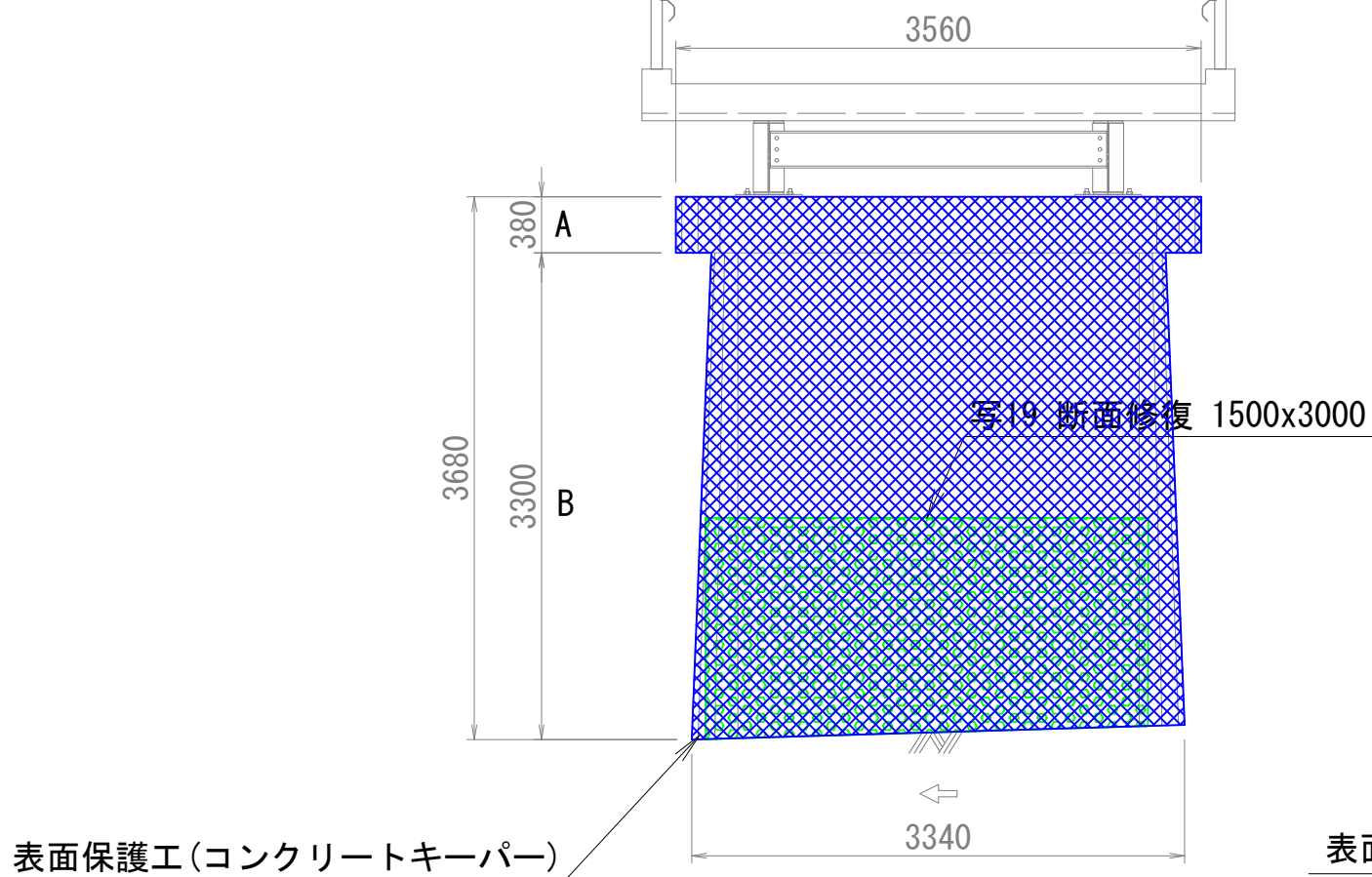
正面図（終点側）

A: $0.380 \times 2.960 + 0.326 = 1.5m2$
B: $(3.303 + 3.203) \times 1/2 \times 2.720 = 8.8m2$

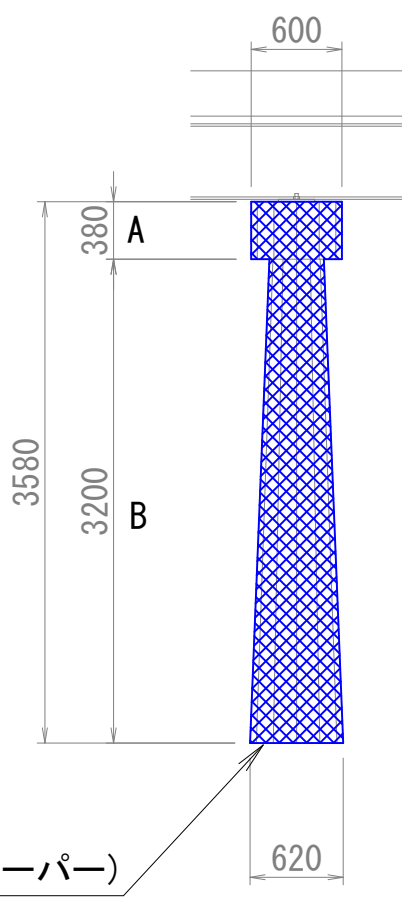
側面図（下流側）



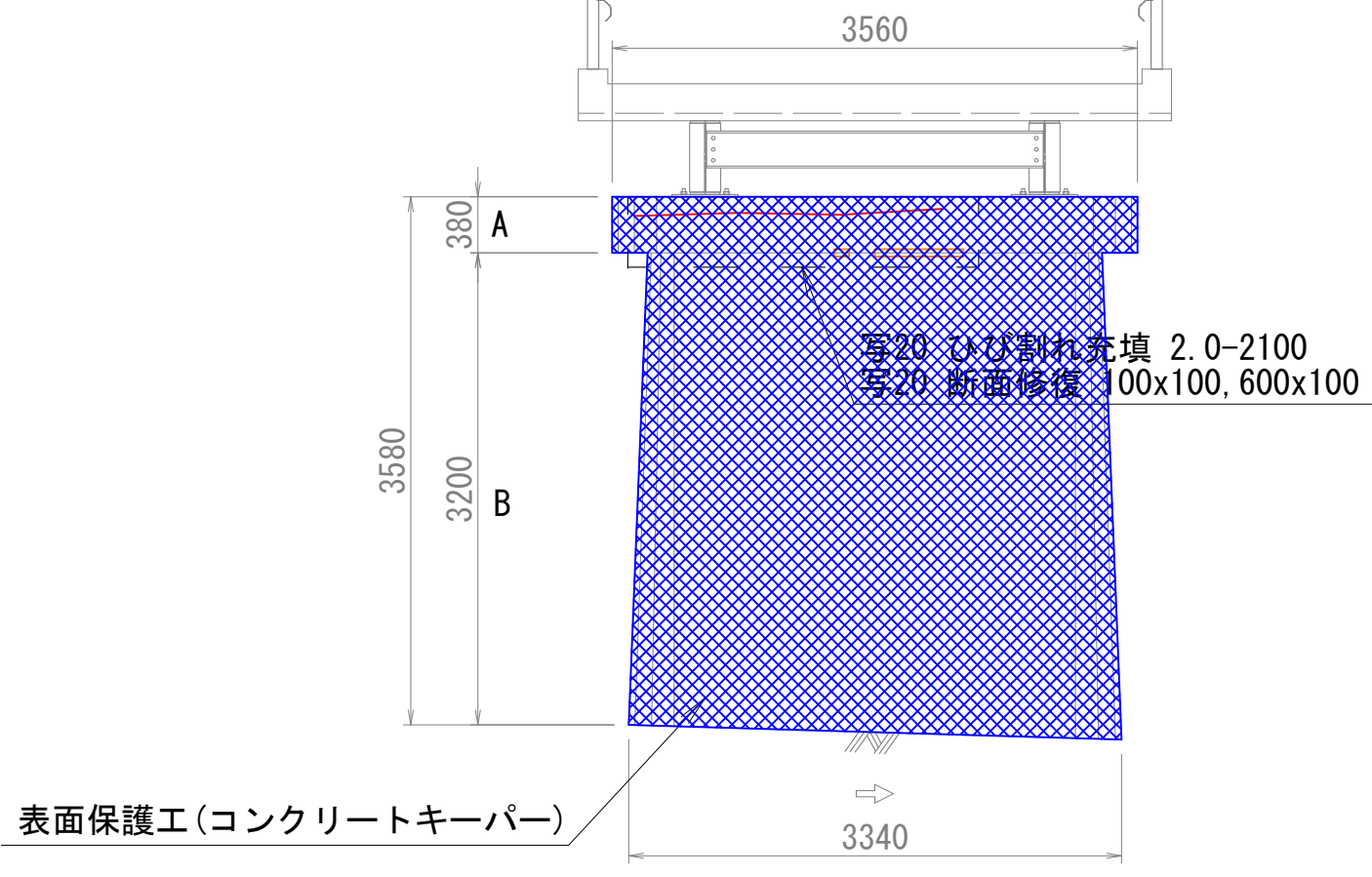
正面図（起点側）



側面図（上流側）



正面図（終点側）



凡 例	
記 号	損 傷 種 類
	ひび割れ (W=0.2mm未満)
	ひび割れ (W=0.2mm～1.0mm未満)
	ひび割れ (W=1.0mm～5.0mm未満)
	ひび割れ (W=5.0mm以上)
	析出物を伴うひび割れ
	う き
	剥 離
	鉄筋露出
	欠 損
	摩 耗・浸 食
	豆 板
	析出物
	漏 水・滞 水
	腐 食
	防食機能の劣化
	その他
写 1	写真番号

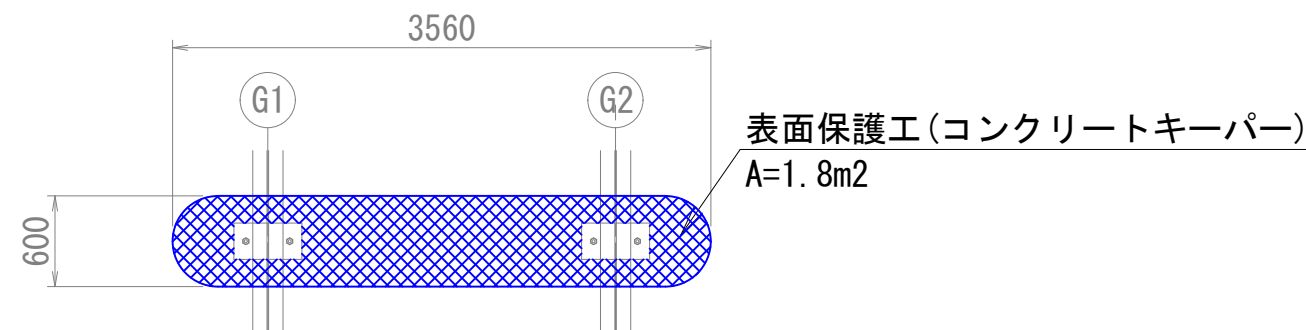
図面番号	5 12	縮尺	1 : 50
工 事 名	市道野々原行田線（共栄橋）補修工事		
種 別	共栄橋 下部工補修図（3）	番 号	／
路線名	野々原行田線		
工事箇所	安芸高田市 高宮町 羽佐竹		
安芸高田市			

共栄橋 下部工補修図（3） S=1:50

P3橋脚・P4橋脚

P3橋脚

平面図（沓座面）



表面保護工(コンクリートキーパー)

P3橋脚

側面図(下流側)

A: $0.942 \times 0.380 + 0.162 = 0.5m2$
B: $(0.565 + 0.974) \times 1/2 \times 3.303 = 2.5m2$

側面図(上流側)

A: $0.942 \times 0.380 + 0.162 = 0.5m2$
B: $(0.565 + 0.974) \times 1/2 \times 3.203 = 2.5m2$

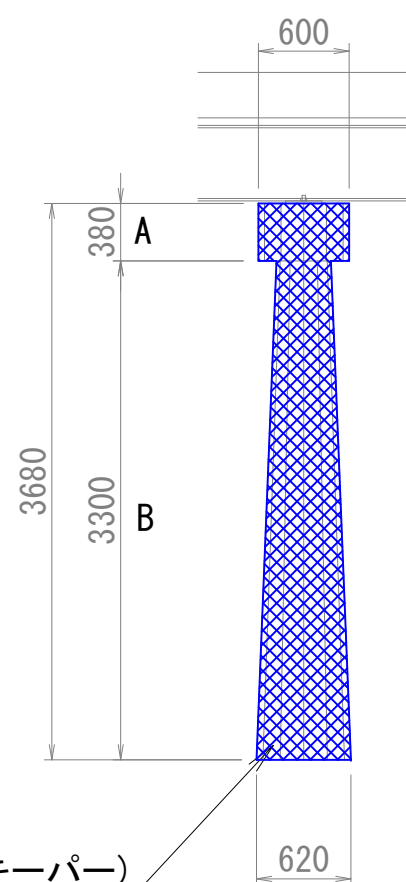
正面図(起点側)

A: $0.380 \times 2.960 + 0.326 = 1.5m2$
B: $(3.303 + 3.203) \times 1/2 \times 2.720 = 8.8m2$

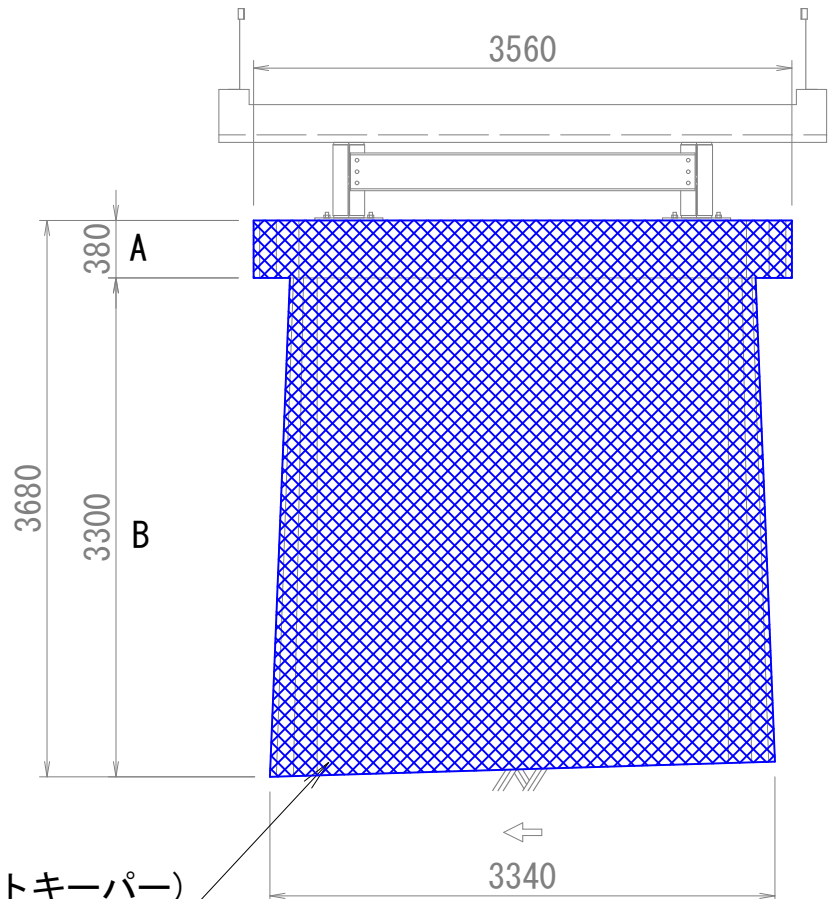
正面図(終点側)

A: $0.380 \times 2.960 + 0.326 = 1.5m2$
B: $(3.203 + 3.303) \times 1/2 \times 2.720 = 8.8m2$

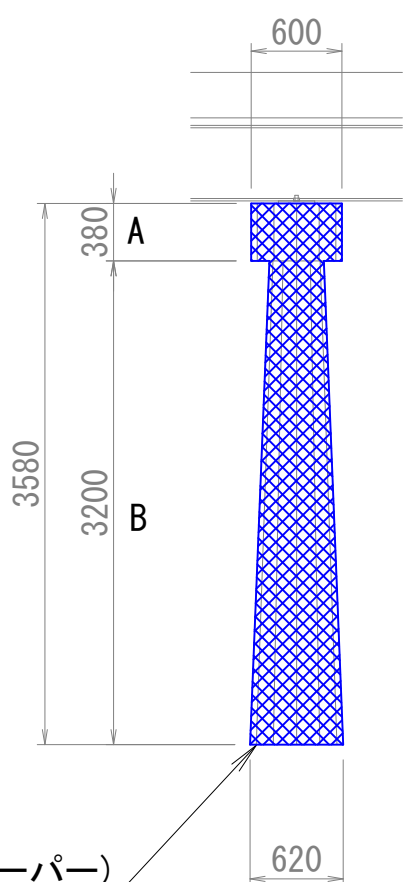
側面図(下流側)



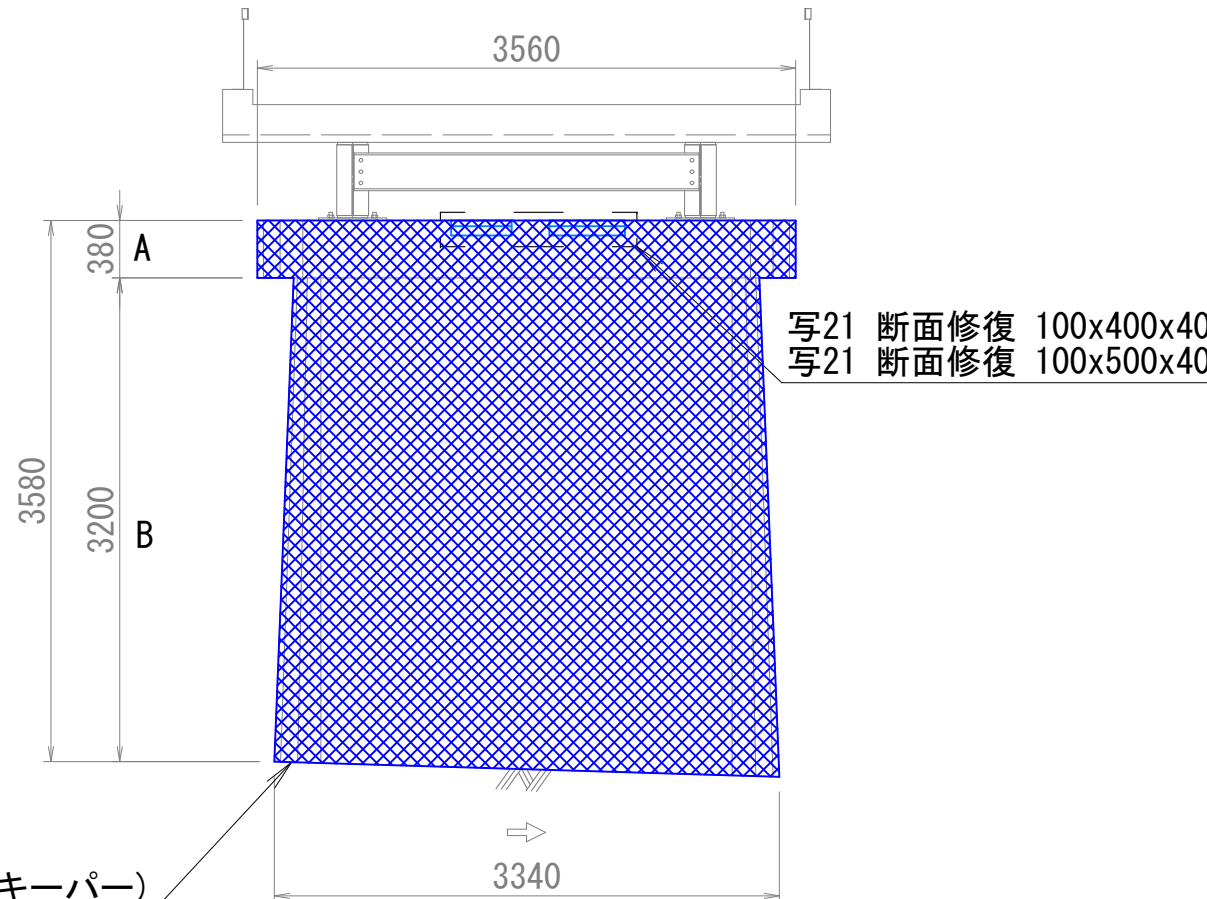
正面図(起点側)



側面図(上流側)

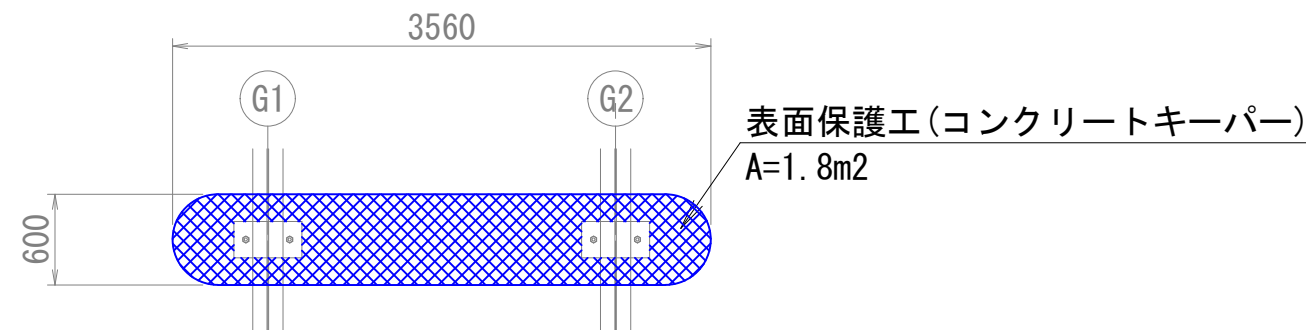


正面図(終点側)



P4橋脚

平面図（沓座面）



表面保護工(コンクリートキーパー)

P4橋脚

側面図(下流側)

A: $0.942 \times 0.380 + 0.162 = 0.5m2$
B: $(0.565 + 0.974) \times 1/2 \times 3.303 = 2.5m2$

側面図(上流側)

A: $0.942 \times 0.380 + 0.162 = 0.5m2$
B: $(0.565 + 0.958) \times 1/2 \times 3.102 = 2.4m2$

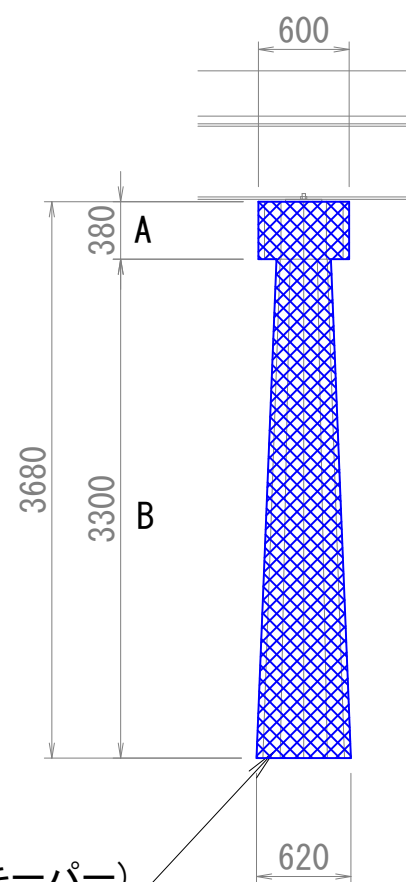
正面図(起点側)

A: $0.380 \times 2.960 + 0.326 = 1.5m2$
B: $(3.303 + 3.102) \times 1/2 \times 2.720 = 8.7m2$

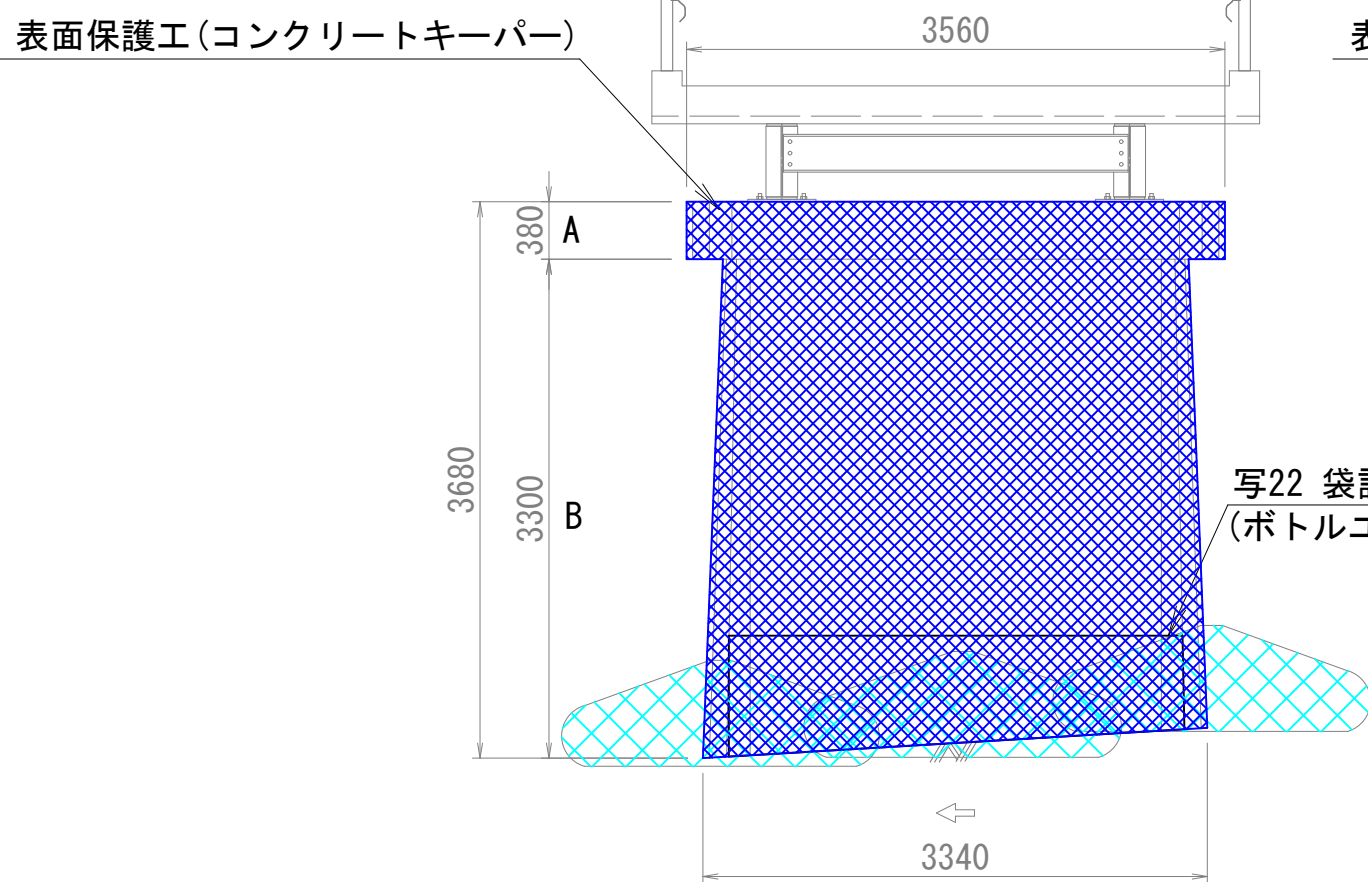
正面図(終点側)

A: $0.380 \times 2.960 + 0.326 = 1.5m2$
B: $(3.303 + 3.102) \times 1/2 \times 2.720 = 8.7m2$

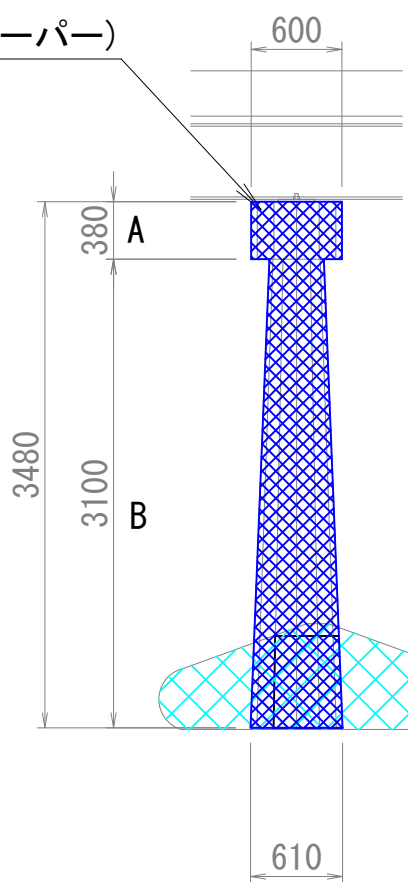
側面図(下流側)



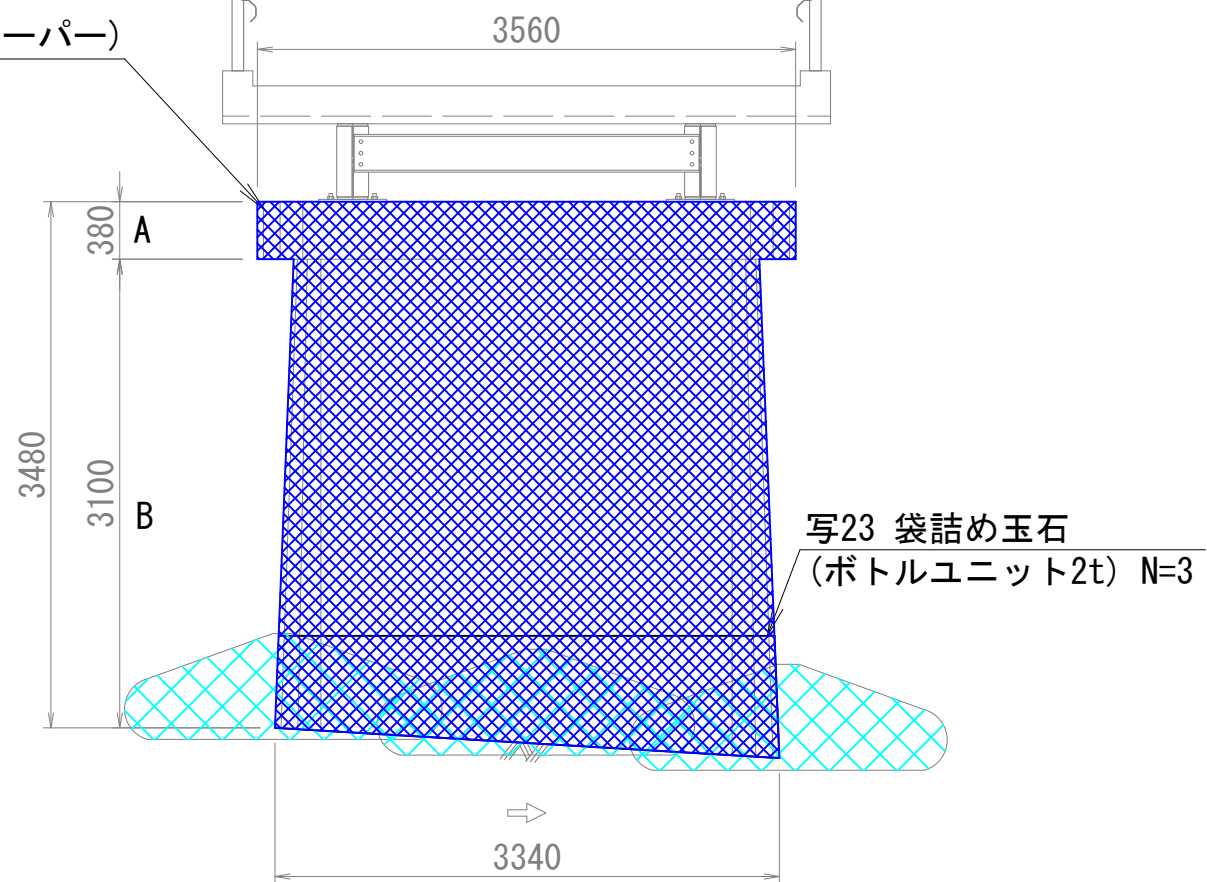
正面図(起点側)



側面図(上流側)



正面図(終点側)

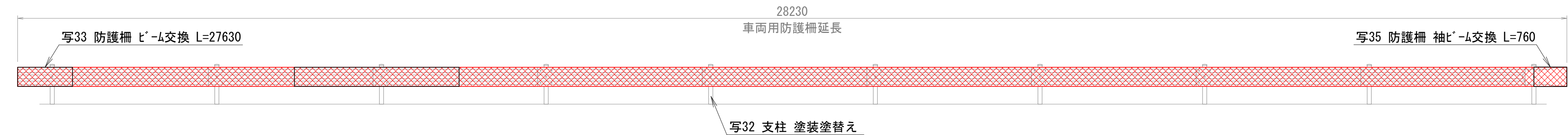


凡 例	
記 号	損 傷 種 類
	ひび割れ (W=0.2mm未満)
	ひび割れ (W=0.2mm～1.0mm未満)
	ひび割れ (W=1.0mm～5.0mm未満)
	ひび割れ (W=5.0mm以上)
	析出物を伴うひび割れ
	う き
	剥 離
	鉄筋露出
	欠 損
	摩 耗・浸 食
	豆 板
	析出物
	漏 水・滞 水
	腐 食
	防食機能の劣化
	その他
写 1	写真番号

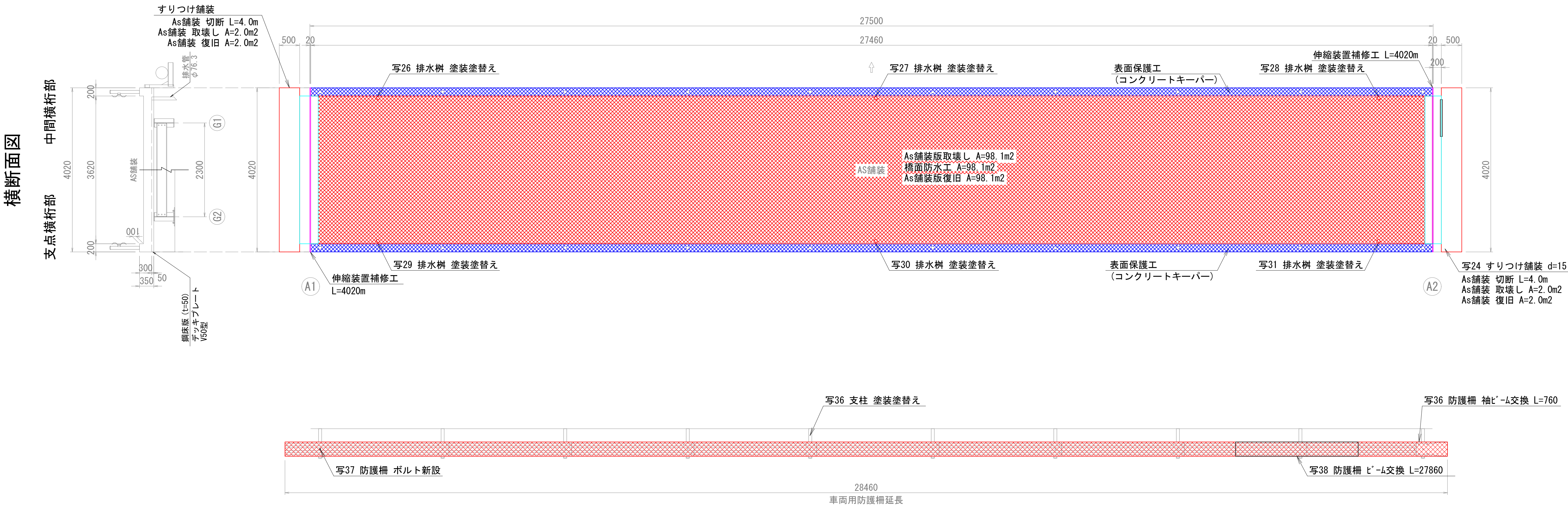
図面番号	6 12	縮尺	1 : 50
工 事 名	市道野々原行田線（共栄橋）補修工事		
種 別	共栄橋 路面補修図	番 号	／
路線名	野々原行田線		
工事箇所	安芸高田市 高宮町 羽佐竹		
安芸高田市			

共栄橋 路面補修図 S=1:50

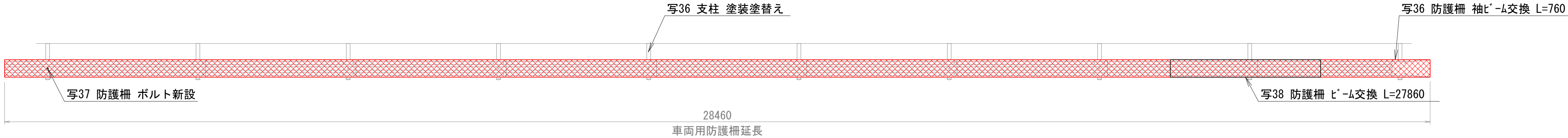
左側車両用防護柵正面図



平 面 図（橋面）



右側車両用防護柵正面図

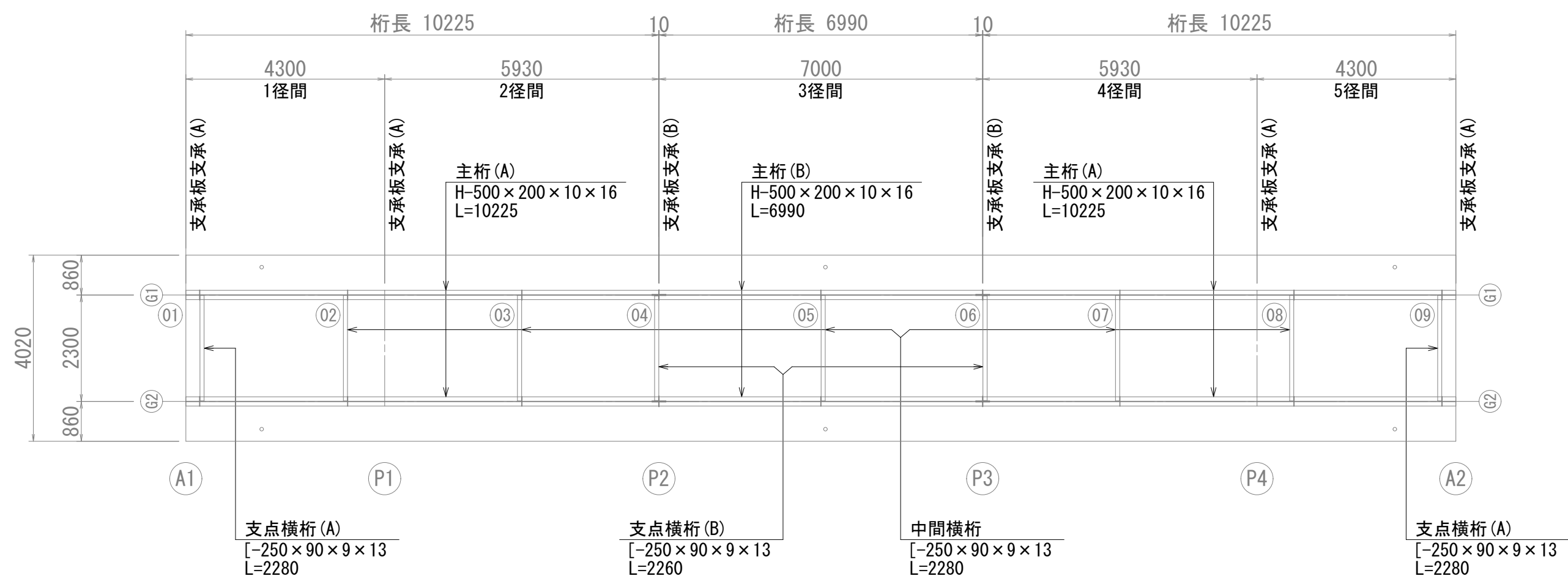


凡 例			
記 号	損 傷 種 類	記 号	損 傷 種 類
	ひび割れ (W=0.2mm未満)		摩 耗・浸 食
	ひび割れ (W=0.2mm～1.0mm未満)		豆 板
	ひび割れ (W=1.0mm～5.0mm未満)		析出物
	ひび割れ (W=5.0mm以上)		漏 水・滞 水
	析出物を伴うひび割れ		腐 食
	う き		防食機能の劣化
	剥 離		その他
	鉄筋露出	写 1	写真番号
	欠 損		

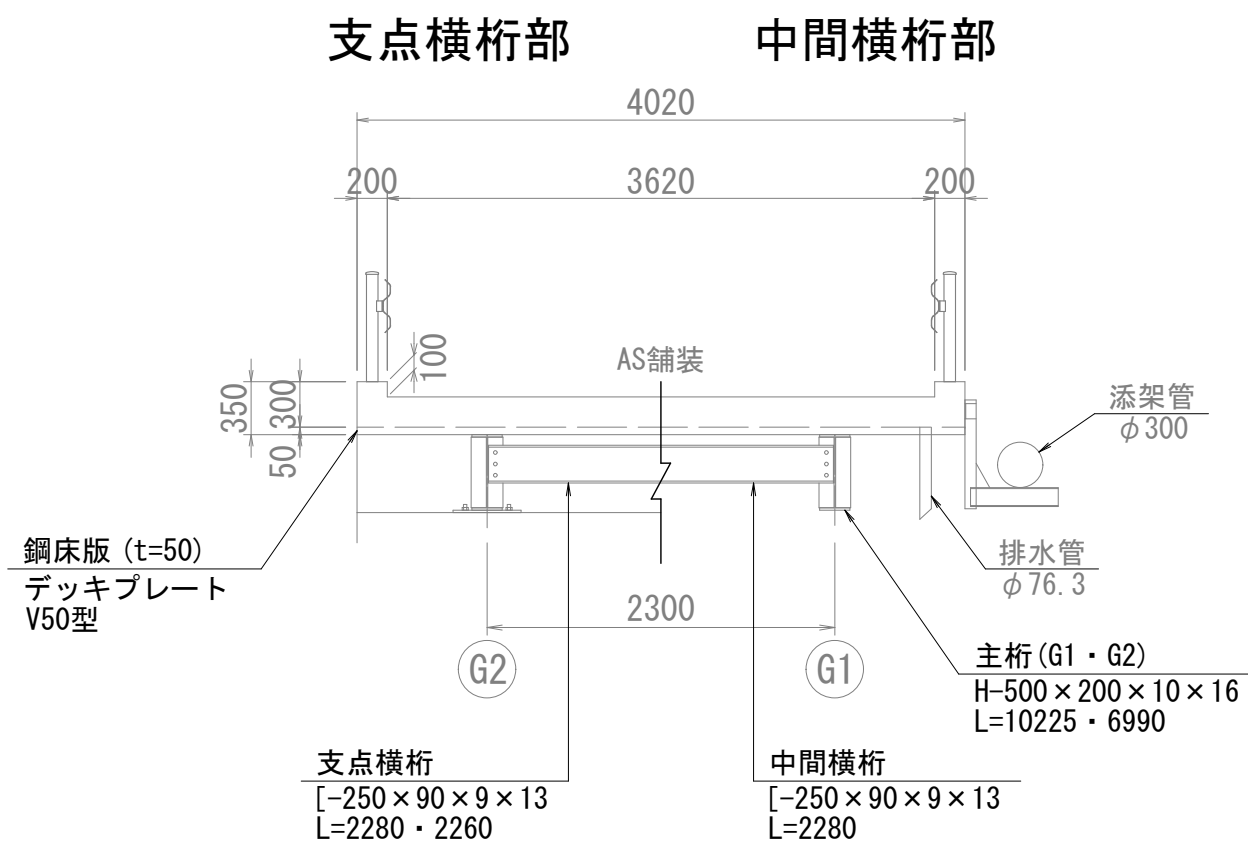
図面番号	7 / 12	縮尺	図示
工 事 名	市道野々原行田線（共栄橋）補修工事		
種 別	共栄橋 鋼材補修図	番 号	／
路線名	野々原行田線		
工事箇所	安芸高田市 高宮町 羽佐竹		
安芸高田市			

共栄橋 鋼材補修図

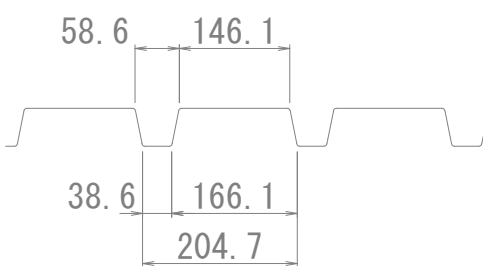
桁配置図 S=1:100



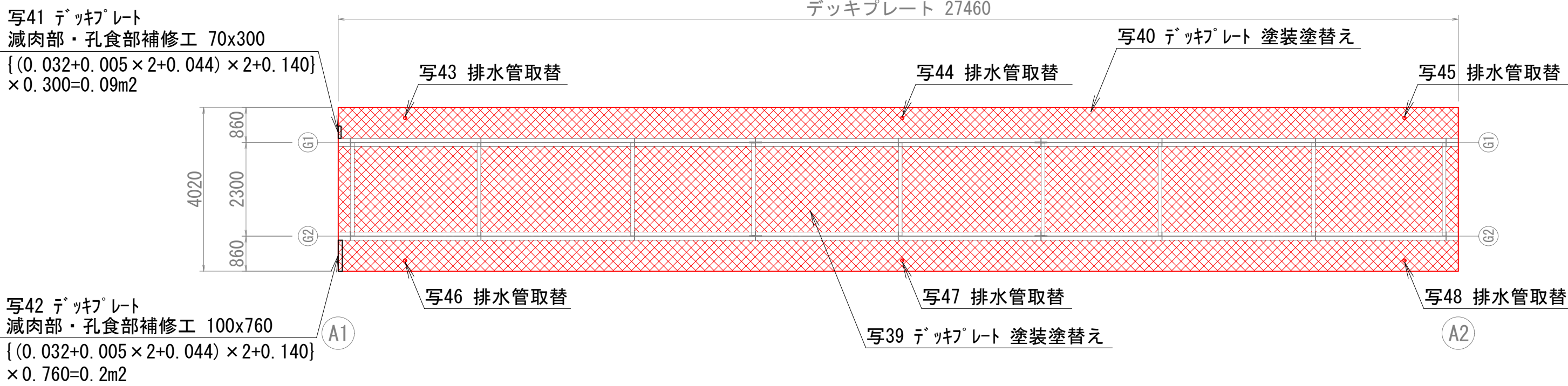
横断面図 S=1:50



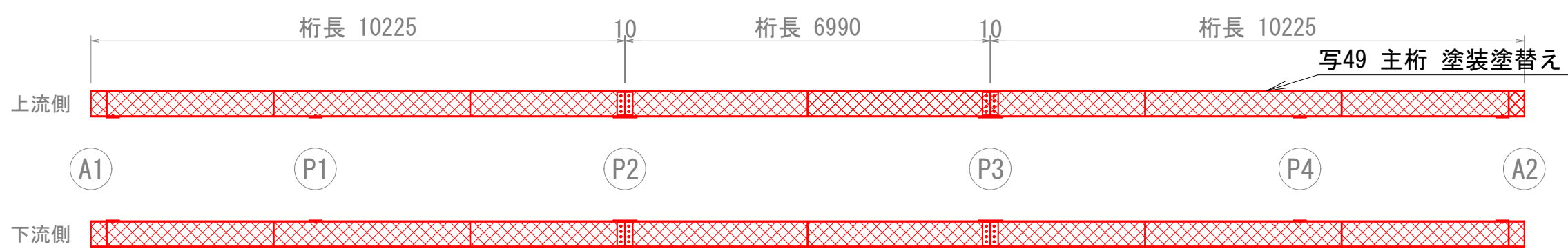
デッキプレート形状図 S=1:5



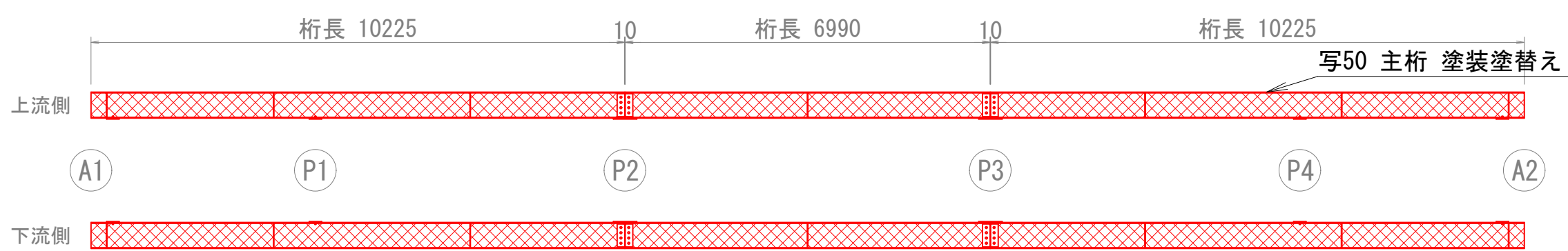
デッキプレート



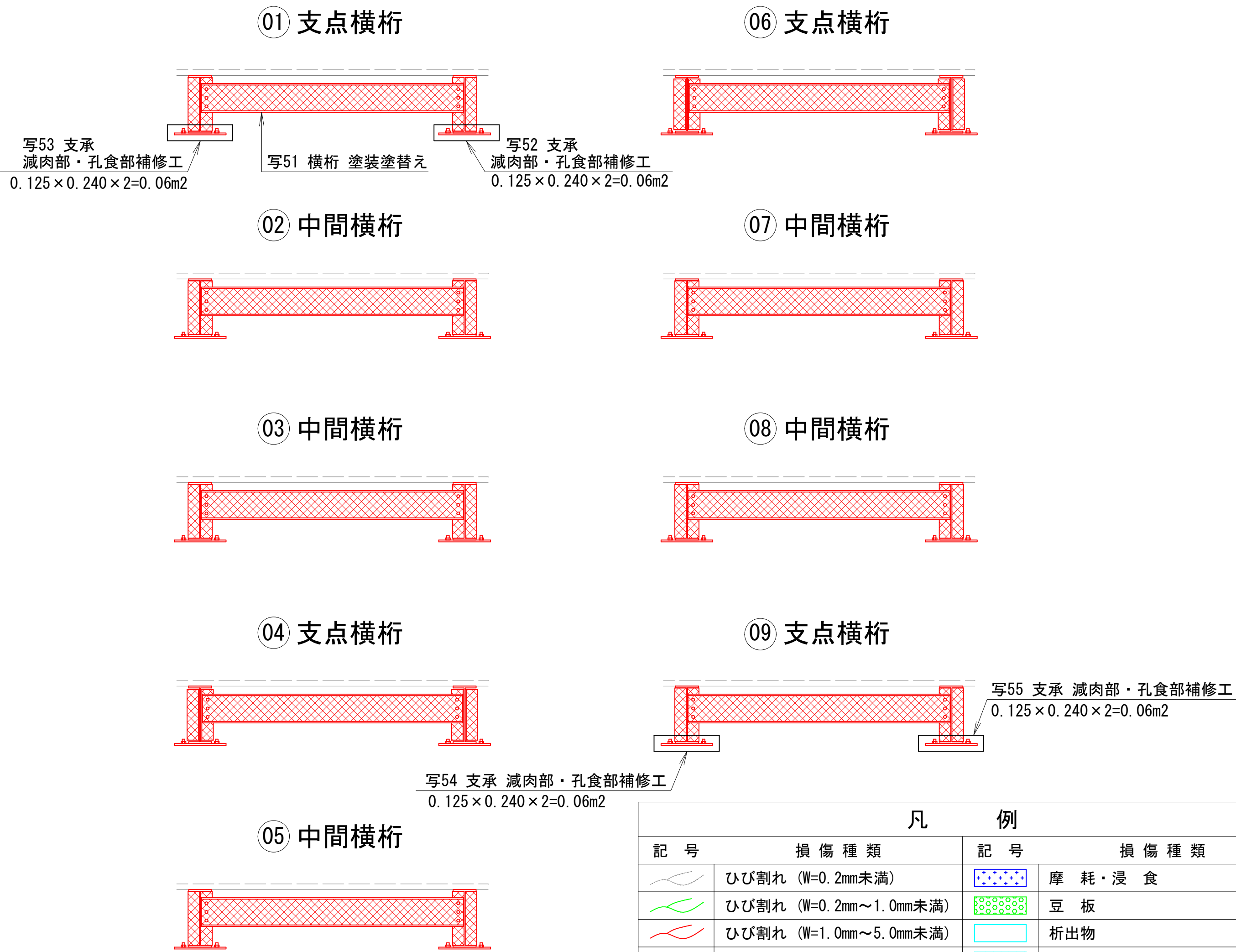
主桁 (G1) 側面図



主桁 (G2) 側面図



横 桁

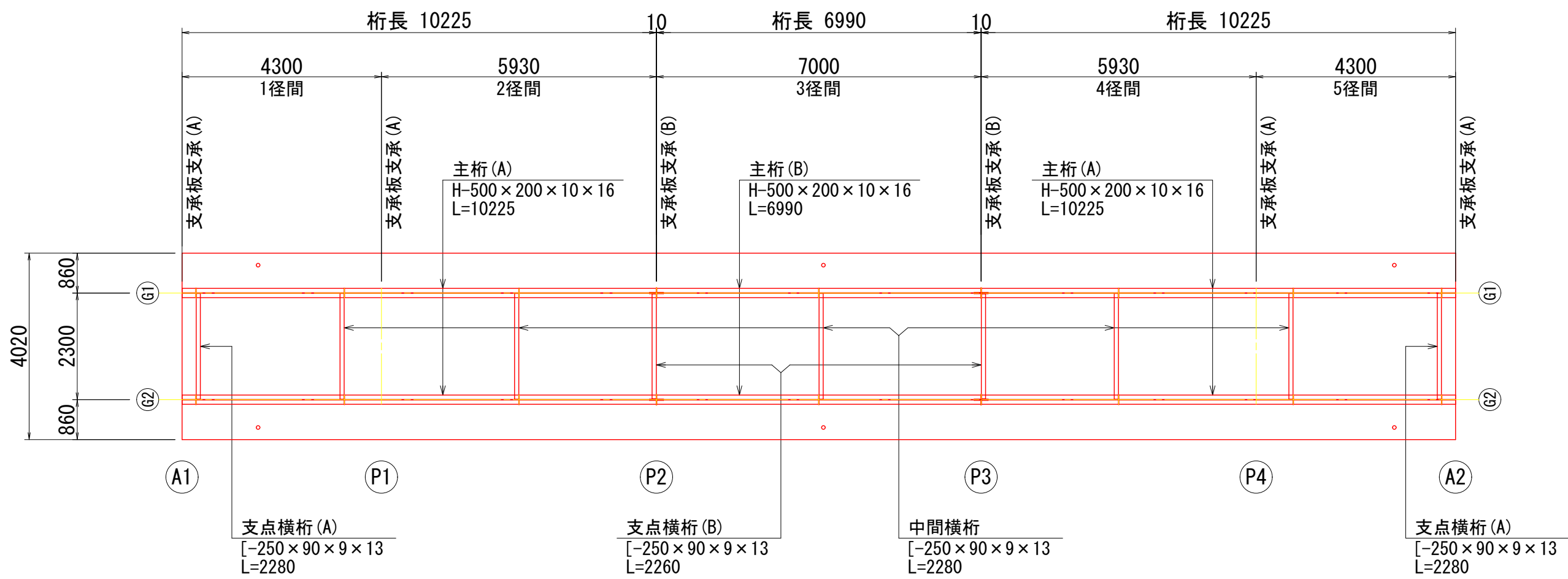


凡 例			
記 号	損 傷 種 類	記 号	損 傷 種 類
	ひび割れ (W=0.2mm未満)		摩 耗・浸 食
	ひび割れ (W=0.2mm～1.0mm未満)		豆 板
	ひび割れ (W=1.0mm～5.0mm未満)		析 出 物
	ひび割れ (W=5.0mm以上)		漏 水・滞 水
	析 出 物 を 伴 う ひび割れ		腐 食
	う き		防食機能の劣化
	剥 離		その他
	鉄筋露出	写 1	写真番号
	欠 損		

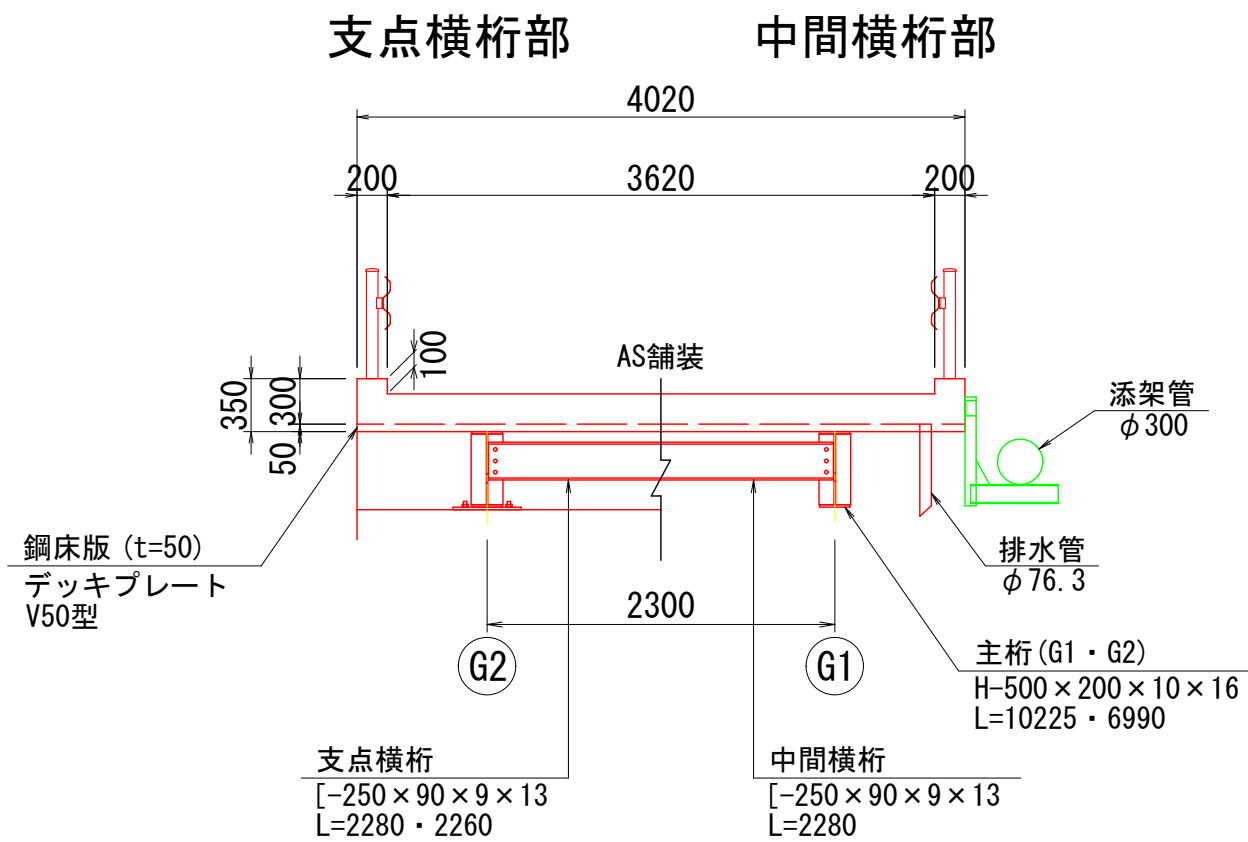
図面番号	8 12	縮尺	図示
工 事 名	市道野々原行田線（共栄橋）補修工事		
種 別	共栄橋 塗装塗替え算出図	番 号	／
路線名	野々原行田線		
工事箇所	安芸高田市 高宮町 羽佐竹		
安芸高田市			

共栄橋 塗装塗替え算出図

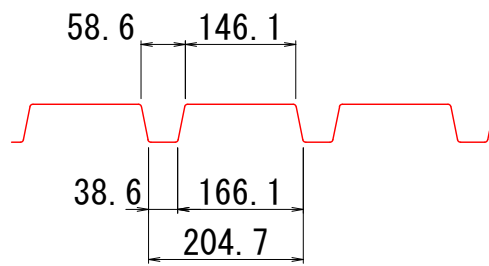
桁配置図 S=1:100



横断面図 S=1:50



デッキプレート形状図 S=1:5



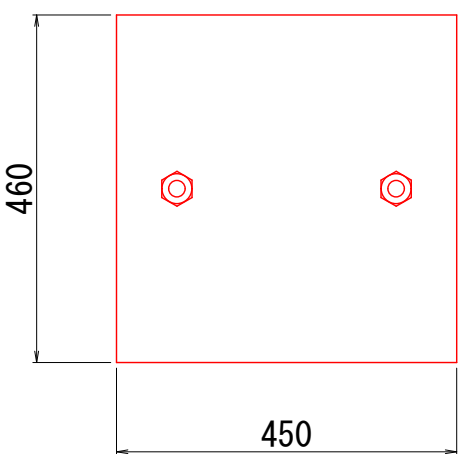
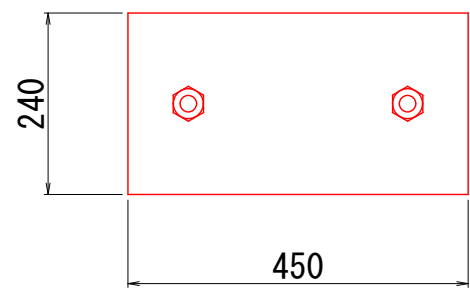
支承詳細図 S=1:10

支承板支承(A)

支承板支承(B)

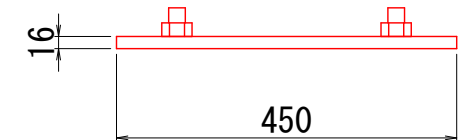
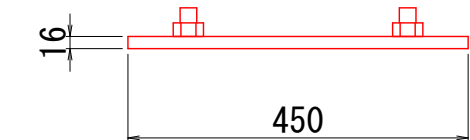
平面図

平面図



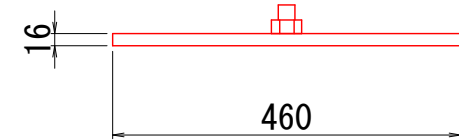
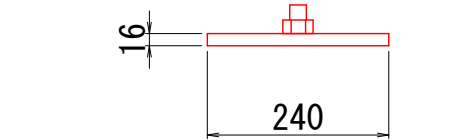
正面図

正面図

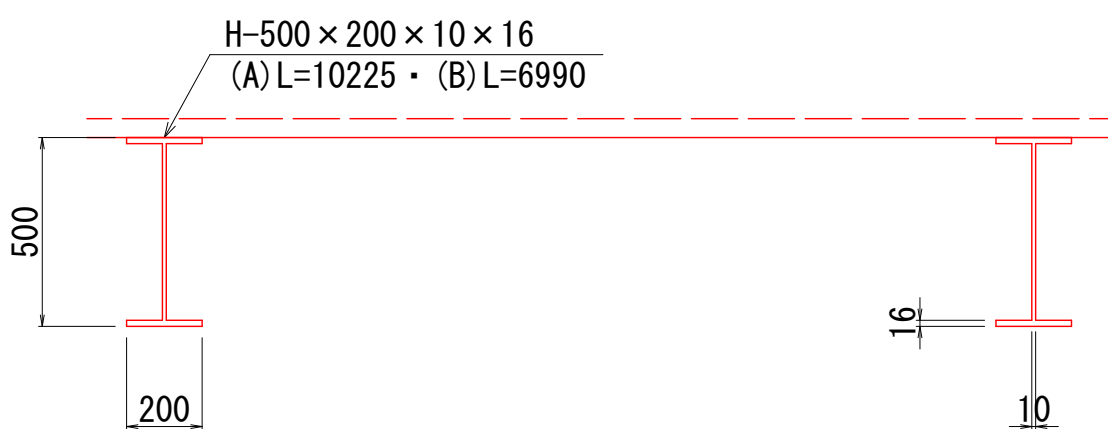


側面図(橋軸方向)

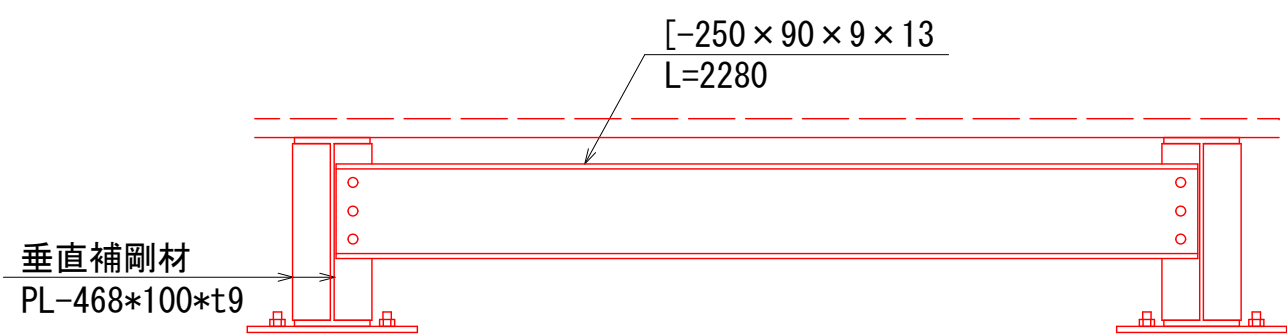
側面図(橋軸方向)



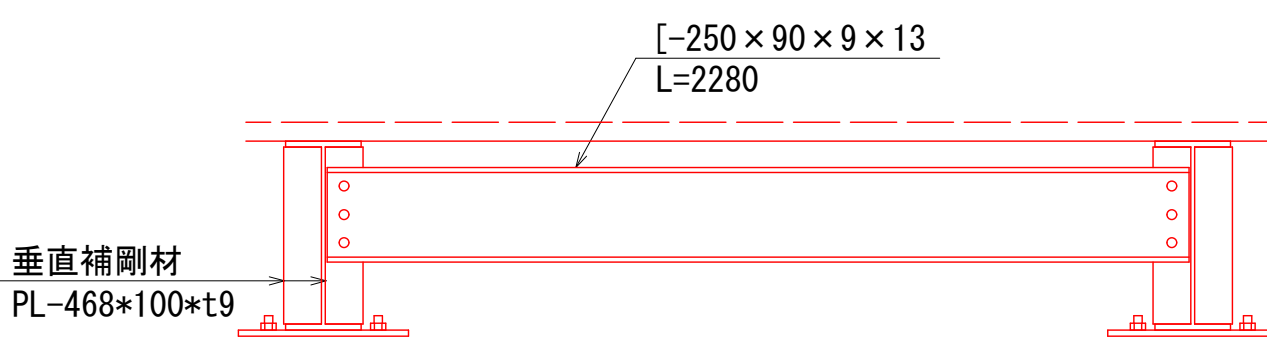
主桁詳細図 S=1:20



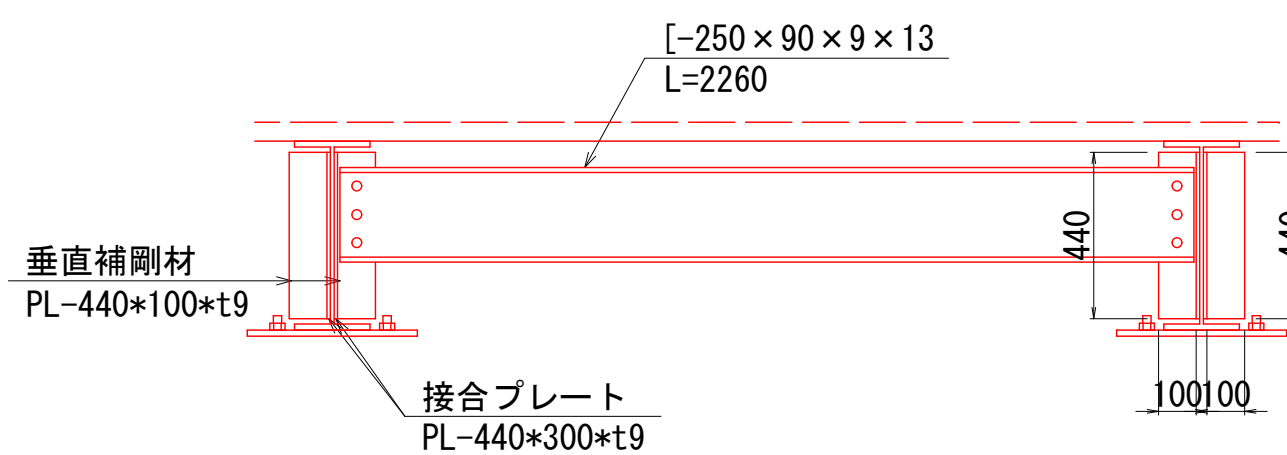
中間横桁詳細図 S=1:20



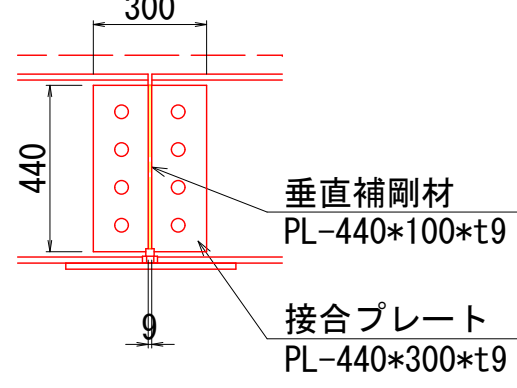
支点横桁(A)詳細図 S=1:20



支点横桁(B)詳細図 S=1:20



側面図



塗装塗替え面積計算式

鋼床版	$\{ (0.016 + 0.005 \times 2 + 0.044) \times 2 + 0.140 \} \times 133 \times 4.020 + 0.016 \times 4.020 \times 2 - \{ (0.032 \times 0.200 \times 133 + 0.030 \times 0.200) \times 2 \} = 148.1 \text{ m}^2$
主桁(A)	$\begin{aligned} & \{ [(0.016 + 0.095) \times 2 + 0.200 + 0.468] \times 2 \times 10.225 \} \times 2 \times 2 + (0.200 \times 0.016 \times 2 + 0.468 \times 0.010) \times 4 \times 2 + (0.173 \times 0.200 \times 100) \times 2 \\ & - [(0.032 \times 0.200 \times 49 + 0.030 \times 0.200) \times 2 + (0.032 \times 0.200 \times 99) \times 2 + (0.468 + 0.095 \times 2) \times 0.009 \times 4 \times 2 + (0.468 + 0.095 \times 2) \times 0.009 \times 4 \times 4 \\ & + (0.200 \times 0.240) \times 2 \times 4] = 77.4 \text{ m}^2 \end{aligned}$
主桁(B)	$\begin{aligned} & \{ [(0.016 + 0.095) \times 2 + 0.200 + 0.468] \times 2 \times 6.990 \} \times 2 + (0.200 \times 0.016 \times 2 + 0.468 \times 0.010) \times 2 \times 2 + (0.173 \times 0.200 \times 33) \times 2 \\ & - [(0.468 \times 0.095 \times 2) \times 0.009 \times 4 + (0.440 \times 0.009) \times 4 \times 2 + (0.200 \times 0.032) \times 34 \times 2 + (0.440 \times 0.145 \times 2) \times 2 \times 2 + 0.200 \times 0.460 \times 4] = 25.9 \text{ m}^2 \end{aligned}$
支点横桁(A)	$\begin{aligned} & \{ (0.090 + 0.003 + 0.010 + 0.062 + 0.021 + 0.125 + 0.096) \times 2 \times 2.280 \} \times 2 + (0.090 \times 0.013 \times 2 + 0.224 \times 0.009) \times 2 \times 2 \\ & - (0.095 \times 0.250) \times 2 \times 2 = 3.6 \text{ m}^2 \end{aligned}$
支点横桁(B)	$\begin{aligned} & \{ (0.090 + 0.003 + 0.010 + 0.062 + 0.021 + 0.125 + 0.096) \times 2 \times 2.260 \} \times 2 + (0.090 \times 0.013 \times 2 + 0.224 \times 0.009) \times 2 \times 2 \\ & - (0.094 \times 0.250) \times 2 \times 2 = 3.6 \text{ m}^2 \end{aligned}$

中間横桁	$\begin{aligned} & \{ (0.090 + 0.003 + 0.010 + 0.062 + 0.021 + 0.125 + 0.096) \times 2 \times 2.280 \} \times 5 + (0.090 \times 0.013 \times 2 + 0.224 \times 0.009) \times 2 \times 5 \\ & - (0.095 \times 0.250) \times 2 \times 5 = 9.1 \text{ m}^2 \end{aligned}$
補剛材	$\begin{aligned} & \{ (0.100 \times 0.468 \times 2) + (0.468 + 0.005) \times 0.009 \} \times 4 \times 2 - (0.095 \times 0.250 \times 2 \times 2) + \{ (0.100 \times 0.468 \times 2) \\ & + (0.468 + 0.005) \times 0.009 \} \times 4 \times 5 - (0.095 \times 0.250 \times 2 \times 5) + \{ (0.100 \times 0.440 \times 2) + (0.440 + 0.100 \times 2) \times 0.009 \} \times 4 \times 2 \\ & - \{ (0.094 \times 0.250 \times 2 \times 2) + (0.440 \times 0.009 \times 2) \times 4 \times 2 \} = 3.0 \text{ m}^2 \end{aligned}$
接合プレート	$(0.440 \times 0.300 \times 2) \times 2 \times 2 + \{ (0.300 + 0.440) \times 0.009 \times 2 \} \times 4 \times 2 - (0.440 \times 0.009) \times 4 \times 2 = 1.1 \text{ m}^2$
支承A	$\{ 0.240 \times 0.125 \times 2 + (0.450 + 0.240) \times 0.016 \times 2 \} \times 2 \times 4 = 0.7 \text{ m}^2$
支承B	$\{ 0.460 \times 0.125 \times 2 + (0.450 + 0.460) \times 0.016 \times 2 \} \times 2 \times 2 = 0.6 \text{ m}^2$
排水樹	$(0.040 \times 0.040 \times 3.14) \times 6 = 0.03 \text{ m}^2$
支柱	$(0.038 \times 2 \times 3.14 \times 0.728) \times 10 \times 2 = 3.5 \text{ m}^2$

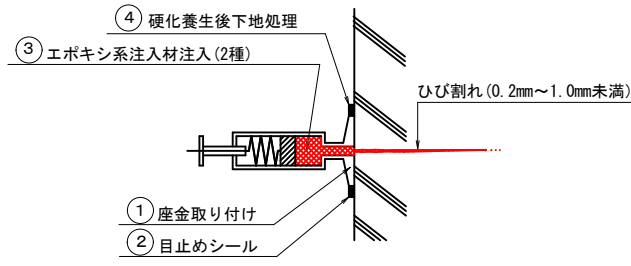
図面番号	9 / 12	縮尺	図示
工 事 名	市道野々原行田線（共栄橋）補修工事		
種 別	共栄橋 補修要領図(1)	番 号	／
路線名	野々原行田線		
工事箇所	安芸高田市 高宮町 羽佐竹		
安芸高田市			

注) A3印刷の場合、縮尺は図示の1/2とする。

共栄橋 補修要領図(1)

ひび割れ補修工

ひびわれ注入工
(注入材 エポキシ2種)



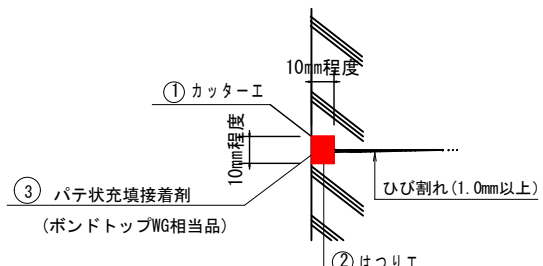
- 注) 1. ひび割れ注入工はひび割れ幅0.2mm～1.0mm未満のひび割れに対して行うこと。
2. ひび割れ充填工は、ひび割れ幅1.0mm以上のひび割れに対して行うこと。
3. 施工箇所や延長については、施工時においてコンクリート表面を清掃したうえで再調査を行い決定すること。

ひび割れ注入材料品質規格

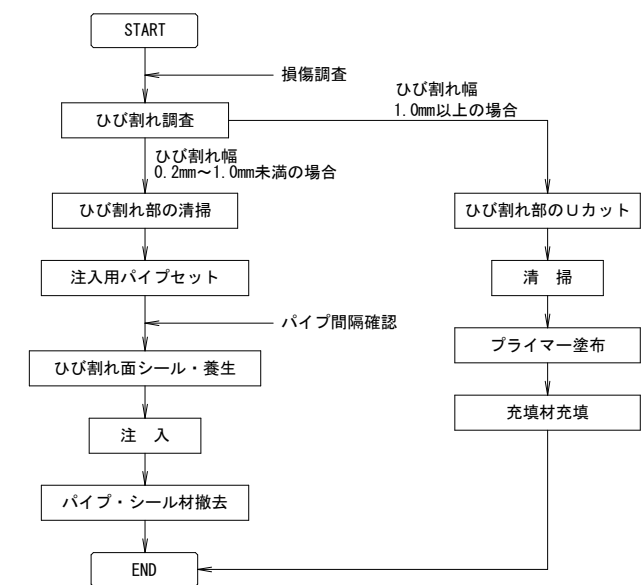
日本コンクリート工学会「コンクリートのひび割れ調査・補修補強設計指針2013」

項 目	単 位	工 事 上 相 準 注 入 材 2 種
ひ び 割 れ 幅	mm	0.2～5.0mm
粘 度	mPa・S	4±1
可 硬 化 時 間	分	30以上
硬 化 時 間	時間	15以内
硬 化 収 縮	%	0.1以下
伸 び 率	%	50以上
モルタル付着強さ (乾燥時)	N/mm2	6以上
付着力耐久性保持率	%	60以上

ひびわれ充填工

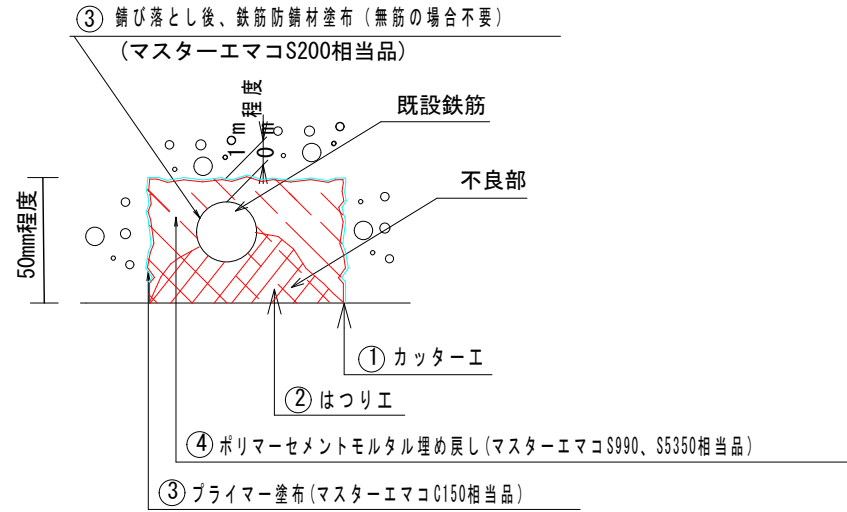


施工フロー



断面修復工

左官工法



- 注) 1. 断面修復工は、欠損、うき、鉄筋露出及びジャンカが生じている箇所に対して行うこととし、施工箇所や範囲については、施工時において再調査のうえ決定すること。
2. 鉄筋の露出まで十分にはつり出し、鉄筋の錆び落とし、清掃及び防錆材の塗布を行ったのちに、断面を修復すること。
3. 断面修復部のかぶり厚は、10mm以上かつ鉄筋径以上確保すること。
4. 鋼材の断面欠損が著しい場合には、新たに添え筋を追加すること。

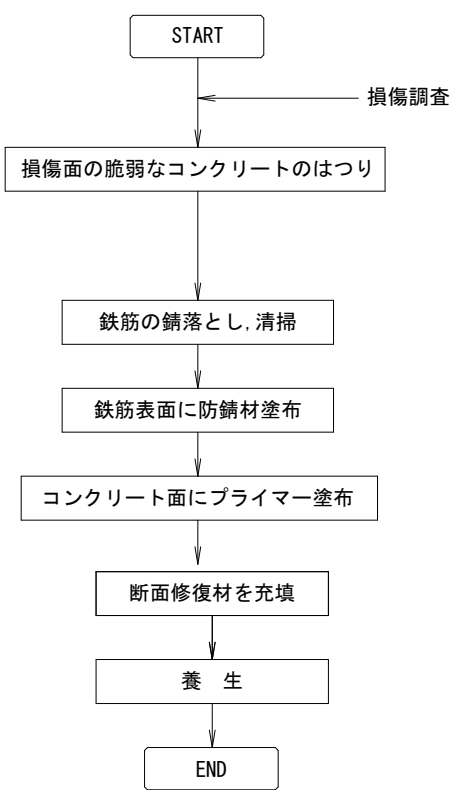
断面修復材の品質規格

構造物施工管理要領 NEXCO H25.7

試験項目	試験体の履歴条件	基準値	試験方法
硬化時間	—	断面修復材の硬化時間は1時間以上であること	JIS A1147
断面修復材の乾燥率	—	断面修復材は均一で、われ、はがれ、ふくれのないこと	JIS A6909
硬化収縮性	—	断面修復材の硬化収縮率は0.05%以下であること 硬化に伴う発熱により反りかえりがないこと	JIS A1129-3
熱膨張性	硬化収縮試験後	断面修復材の熱膨張係数は2.0×10 ⁻⁶ /℃以下であること	JIS K6911
コンクリートとの付着性	—	コンクリートと断面修復材との付着強度は、1.5N/mm2以上であること	JIS A6909
塗装塗膜との付着性	—	塗膜と断面修復材との付着強度は、1.0N/mm2以上であること	JIS A1108
圧縮強度	—	設計基準強度以上であること	JIS A1108
流動性*	—	使用する材料の規格値以内	JISCE-F541-2010

* 流動性は、注入工法で使用する材料に適用する(J14漏斗落下時間)。

施工フロー

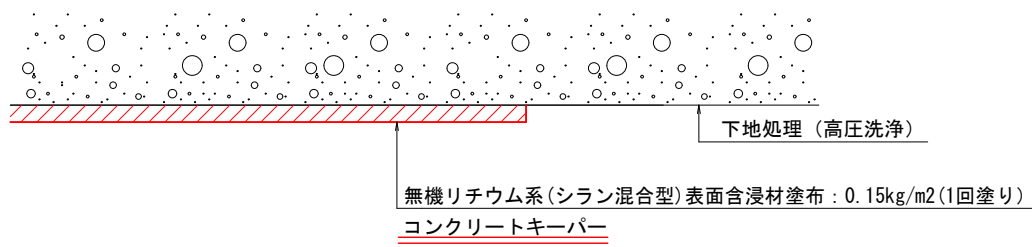


鉄筋防錆材の品質規格

構造物施工管理要領 NEXCO H25.7

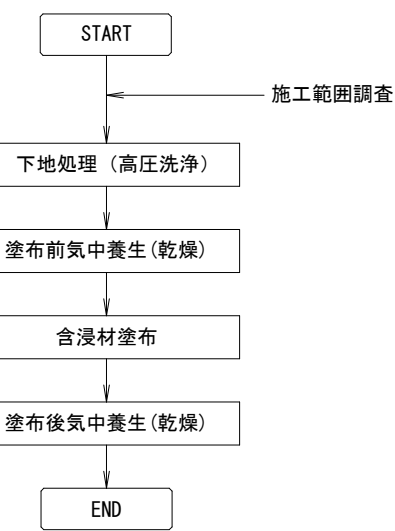
試験項目	試験項目	基準値
防錆性	防錆試験	処理部 防錆率50%以上
		未処理部 防錆率10%以上
鉄筋との付着性	鉄筋に対する付着強さ	7.8N/mm2 以上
コンクリートとの付着性	耐アルカリ性	塗膜に異常が認められないこと

表面保護工（無機リチウム系（シラン混合型）表面含浸材塗布工）

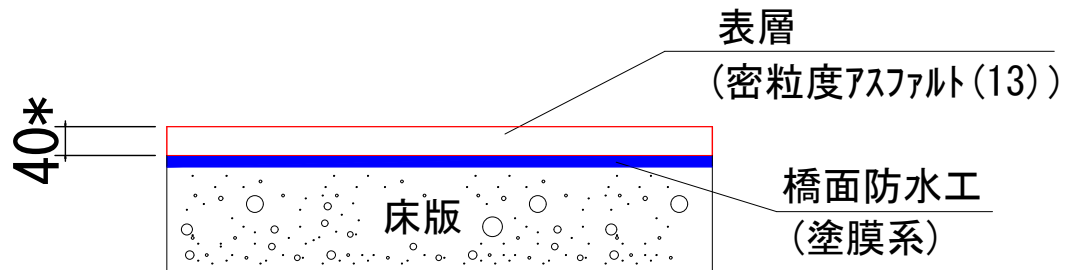


- 注) 1. 施工範囲については、施工時において再調査のうえ決定すること。
2. コンクリート表面の汚れ及び油分を十分取り除き塗布すること。
3. ひび割れ注入、断面修復後に施工すること。
4. 施工面は乾燥面とする。

施工フロー



アスファルト舗装



* 舗装厚は40mmを想定しているが、舗装剥ぎ取り後、既設舗装厚を測定し、既設舗装厚と同じ厚さとする。

図面番号	10 / 12	縮尺	図示	
工 事 名	市道野々原行田線（共栄橋）補修工事			
種 別	共栄橋 補修要領図(2)		番 号	／
路線名	野々原行田線			
工事箇所	安芸高田市 高宮町 羽佐竹			
安芸高田市				

注) A3印刷の場合、縮尺は図示の1/2とする。

共栄橋 補修要領図(2)

塗装塗り替え工

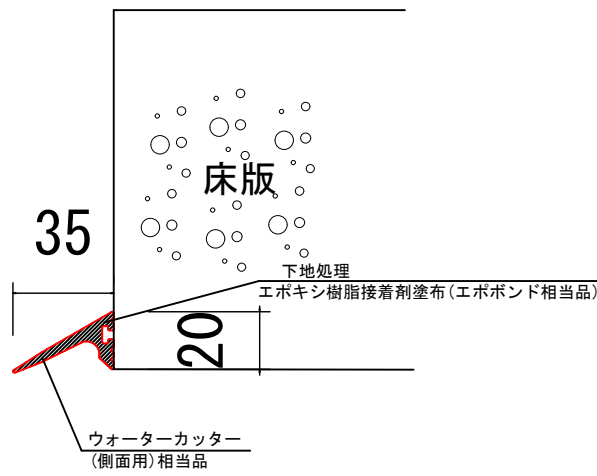
(アースコート防錆-塗装システム)



- *中塗り・上塗りの色は、発注者と協議のうえ決定すること。
- *旧塗膜除去は、湿潤式(ECO STRIPPER工法)で行うものとする。
- *旧塗膜除去前に試験施工を必ず実施し、最適な塗布量、放置時間を確認すること。

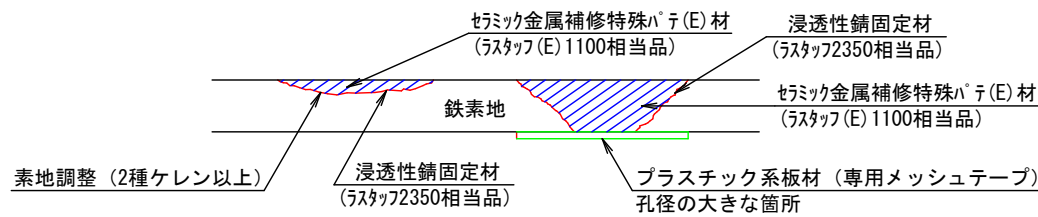
水切工

(側面用)



減肉部・孔食部補修工

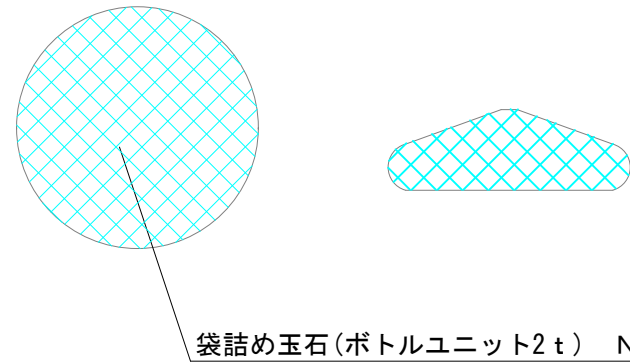
セラミック金属補修特殊パテ(E)材



- 注)
- 施工前に必ず現地寸法を確認し、金属補修及び塗装範囲、数量調査を協議のうえ施工すること。
 - 図中詳細寸法は現地計測のうえ決定すること。
 - 素地調整については2種ケレン以上とし、錆腐食部、錆を除去し鋼材面を露出させること。
 - 下地処理面は凹部・亀裂部がなく塗布面平滑となるよう努めること。
 - 下地処理面にはホコリ不純物を完全に除去し、乾燥状態を保つこと。
 - 素地調整後から金属補修工までは速やかに行うこと。
 - 使用する金属補修材は、下記基本物性の補修材を使用し、材料の取扱い注意事項に留意すること。

セラミック金属補修パテ(E)材 基本物性		
項 目	試験結果	
引張接着強度	23.6N/mm ²	
耐摩耗性(磨耗輪法)	52.0mg	
ロケット硬度R2ケル	115	
耐塩水噴霧試験	24,000時間変化なし	

洗掘対策工



*各ボトルユニットの天端を専用のロープで結合させ、一体化すること。

製 品 仕 様	
名称	ボトルユニット
標準	F80-20(2)
規格	2000×2100mm (±10mm)
設計図	別添
鋼部材	ポリエスチレン製ラジアルリブ鋼 (黒鋼板)
引張強度	40N/本以上
伸び率	25%以上かつ40%以下
ポリエスチレン黒鋼板(4mm)	引張強度 40N以上
口絞りロープ	伸び率 3.5%以上
伸び率	40%以下
ポリエスチレン黒鋼板(6mm)	引張強度 40N以上
伸び率	40%以下
吊りロープ	引張強度 120N以上
伸び率	40%以下
ポリエスチレン黒鋼板(6mm)	引張強度 40N以上
伸び率	40%以下
底絞りロープ	引張強度 120N以上
伸び率	40%以下
備考	建設技術審査監理特許商品

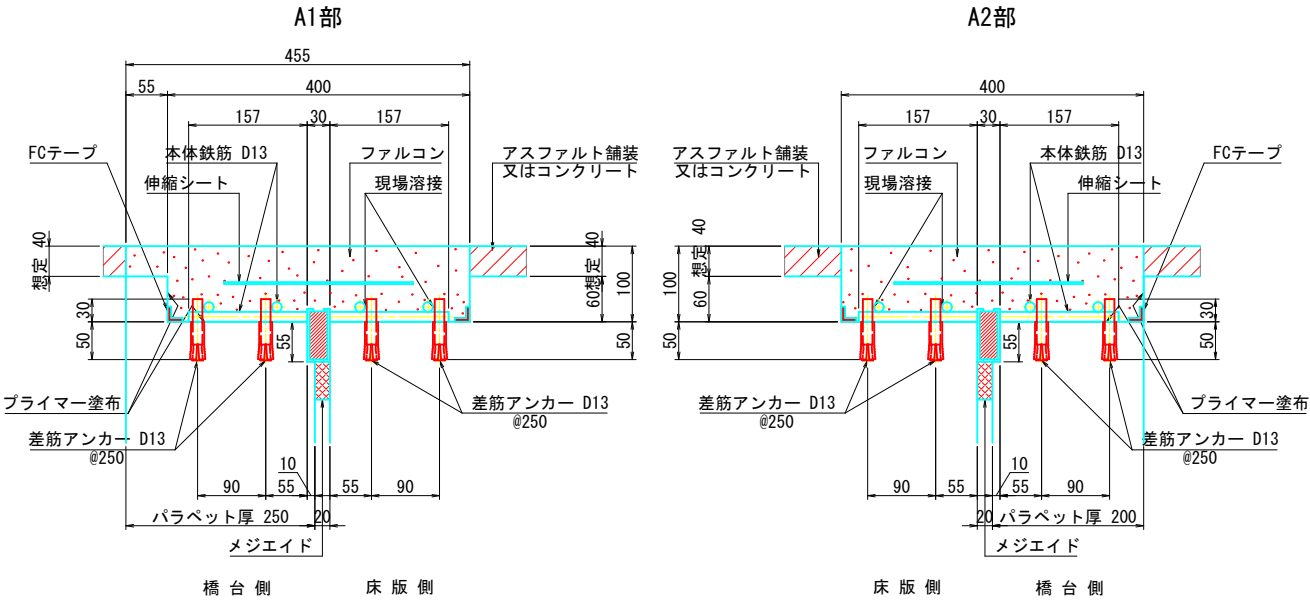
*指定補修工用とは連絡ロープを用い縛縛とすること。
連絡用ロープ
規格・素材 ポリエスチレン黒鋼板φ12mm

出来形形状
※中継材、設置時(150~250mm)
※設計図は、現場の伸びを参照して行います。
※上記の出来形寸法は、参考値です。
現場によって寸法が異なる場合があります。設置、取扱いなどが異なるため、設計図、現場と異なります。
また、現場内する場合には、重量や組み立てにより、設計値よりも低くなることを考慮するため、現場ごとに調整が必要である。

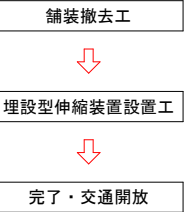
図面番号	11 12	縮尺	図示
工 事 名	市道野々原行田線（共栄橋）補修工事		
種 別	共栄橋 伸縮装置補修回	番 号	／
路線名	野々原行田線		
工事箇所	安芸高田市 高宮町 羽佐竹		
安芸高田市			

共栄橋 伸縮装置補修図

伸縮装置取付断面図 S=1:5

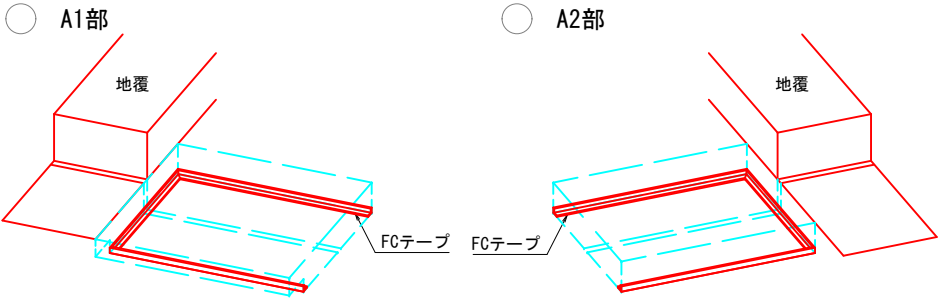


施工フロー

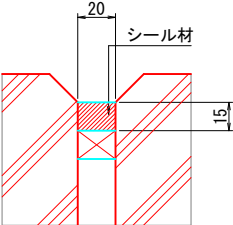


- 注1) 仕様・諸寸法・適応の可否は、現地再調査及び照査の上、決定のこと。
注2) パラペット天端撤去の際に、鉄筋等が露出した場合には、必要に応じて防錆処理を行うこと。
注3) 伸縮装置箱抜部については、必要に応じて超速硬無収縮モルタル等にて補修及び不陸調整を行うこと。
注4) ファルコンを舗設する際には、FCテープを使用すること。
注5) FCテープは施工箇所を囲むようにファルコン舗設幅分も設置すること。
注6) 既設伸縮装置は、ノージョイントを想定。

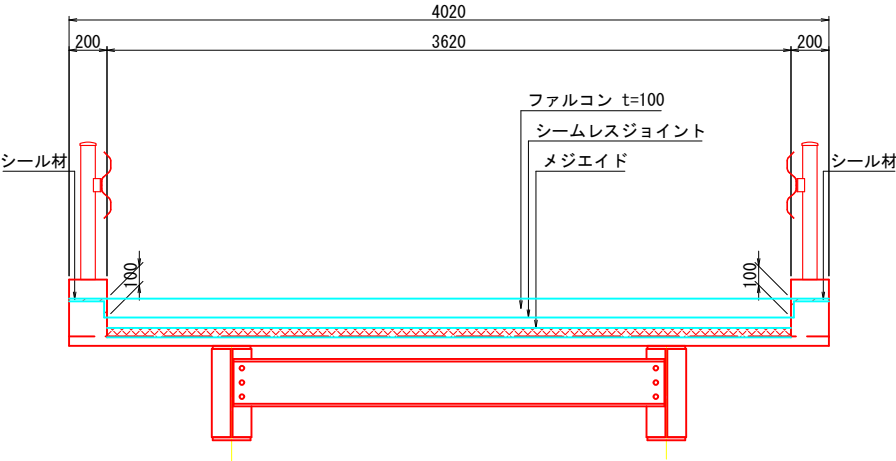
施工境界部イメージ図



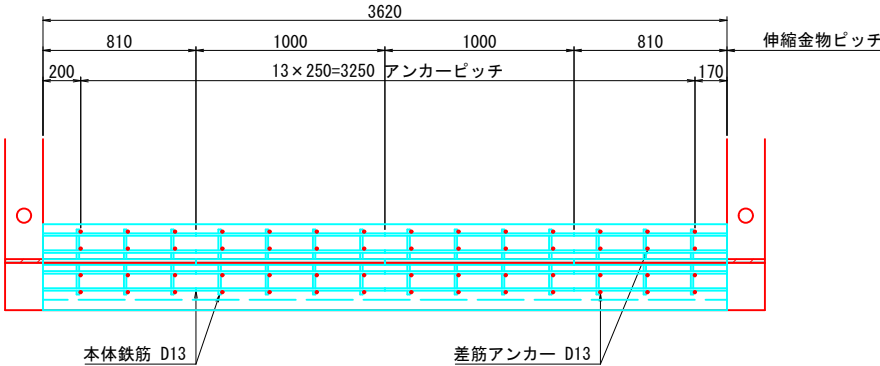
地覆部断面図 S=1:2



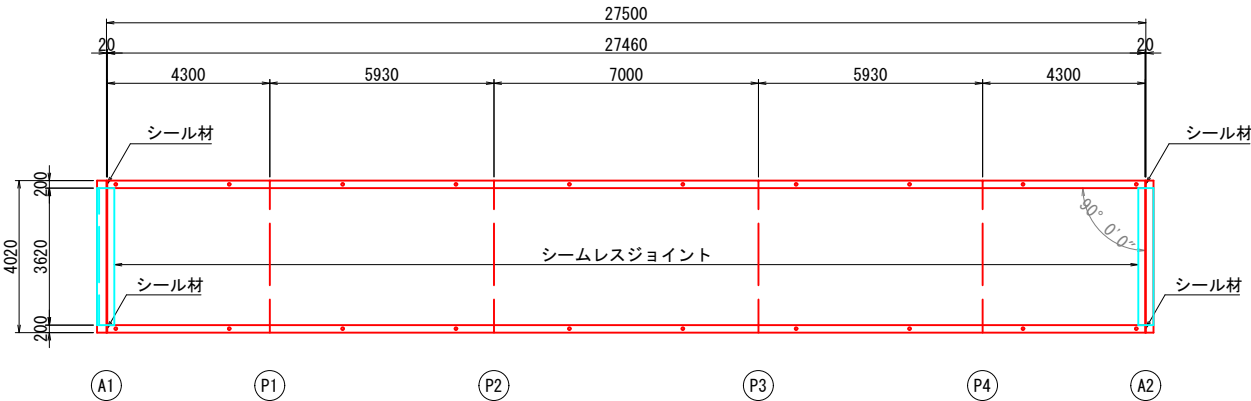
断面図 S=1:20



部材平面図 S=1:20



配置図 S=1:100



数量表（設置）

名 称	品名又は仕様	単位	数 量	備 考
伸 縮 金 物	シームレスジョイント SJ-M型	m	7.240	本体鉄筋・伸縮シート装備
プライマー	F C コ ー ト	L	2.3	
弾 性 合 材	フ ァ ル コ ン	m ³	0.298	
止 水 材	メ ジ エ イ ド	m	7.240	
特殊遅青テープ	F C テ ー プ	m	16.240	
差筋アンカー	D13	本	112	

※ 斜角は資料を基に計測した数値である。

数量表（撤去及び他材料）

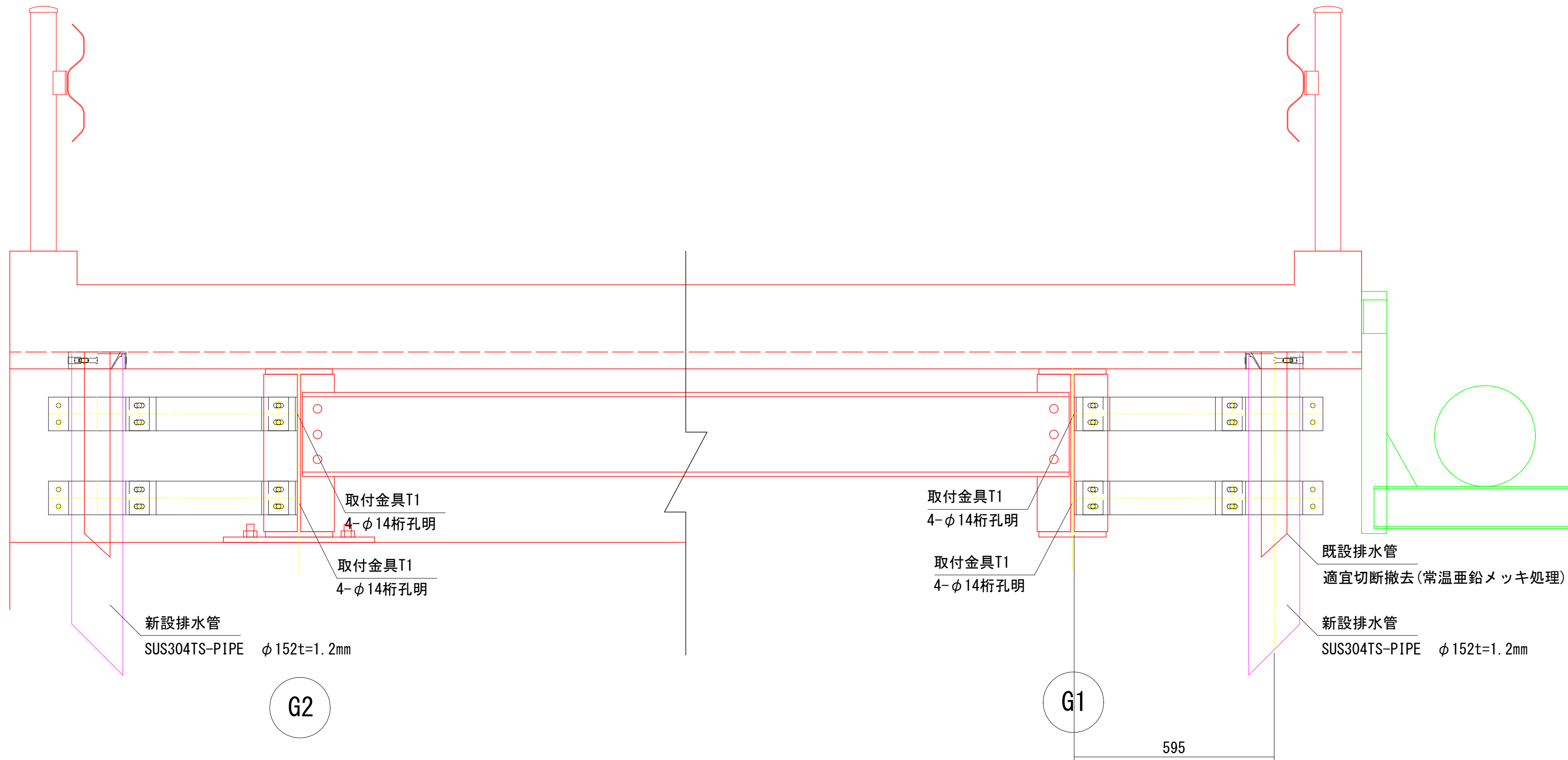
名 称	品名又は仕様	単位	数 量	備 考
パラペット天端撤去	コンクリート	m	3.620	A1部
シール材	シリコン系	L	0.4	

図面番号	12 12	縮尺	1 : 100
工 事 名	市道野々原行田線（共栄橋）補修工事		
種 別	共栄橋 排水装置図	番 号	／
路線名	野々原行田線		
工事箇所	安芸高田市 高宮町 羽佐竹		
安芸高田市			

共栄橋 排水装置図

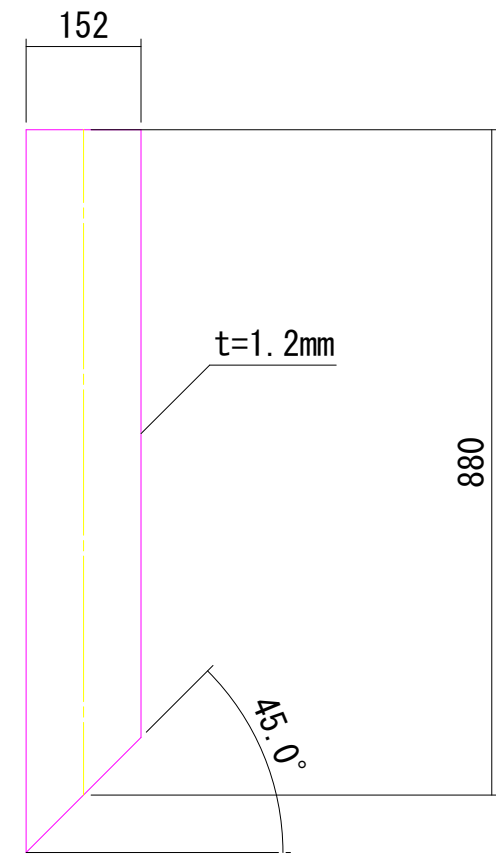
TSステンレス排水装置

横断面図



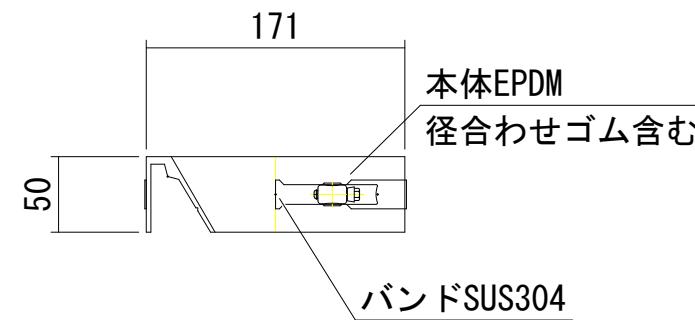
加工管詳細図

P1
製作数=6



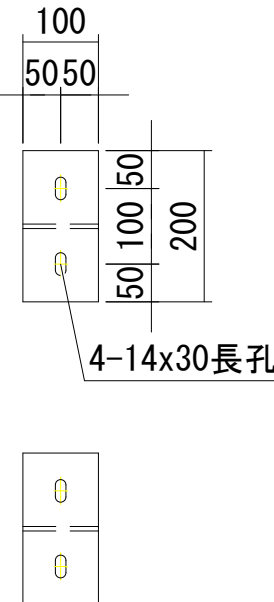
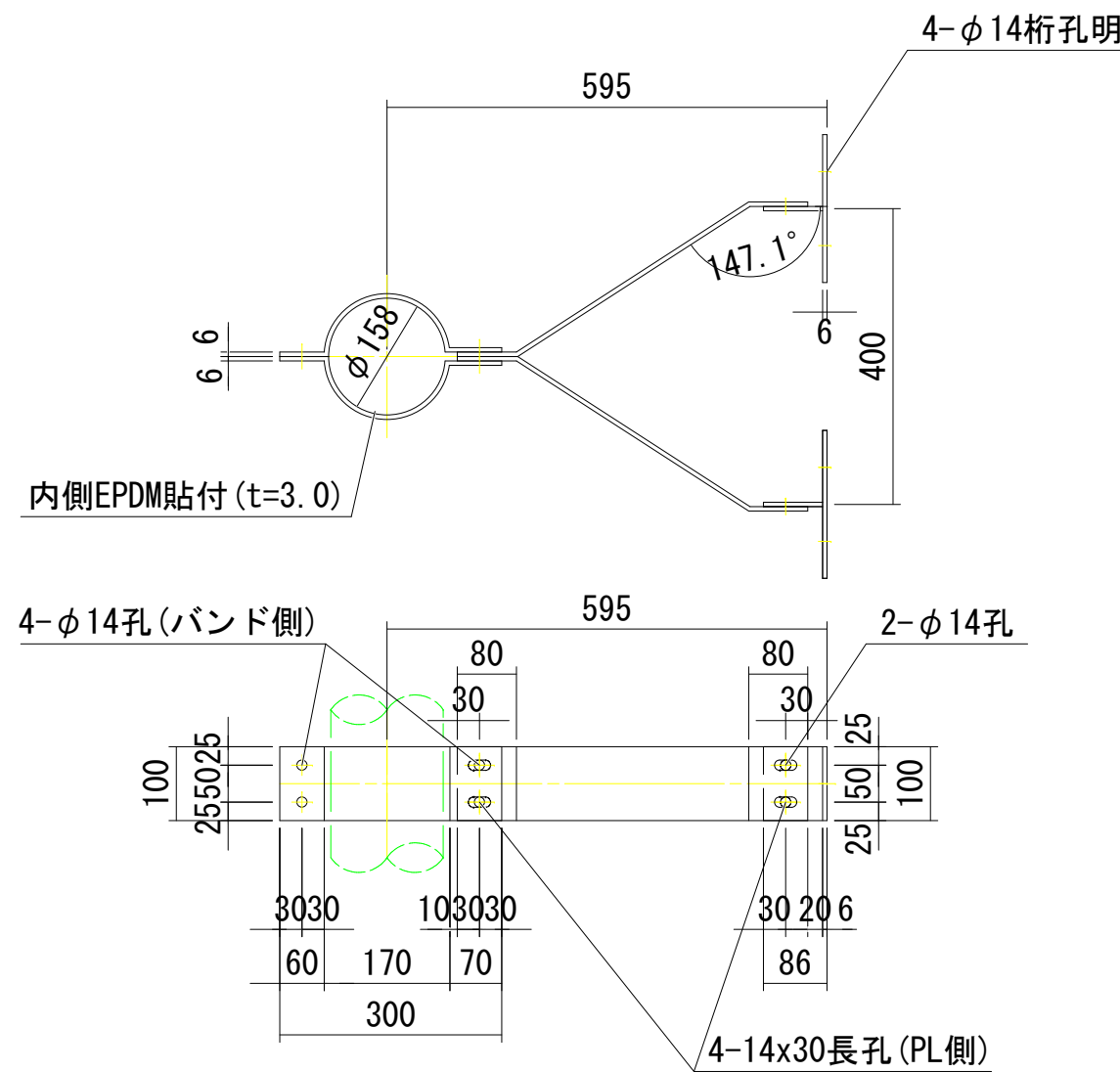
柵接続継手詳細図 S=1:5

φ150用
製作数=6



取付金具詳細図

T1
製作数=12



- 2-PL 100x6x385 (SS400)
- 2-PL 100x6x531 (SS400)
- 2-PL 100x6x80 (SS400)
- 2-PL 100x6x200 (SS400)
- 12-BN M12x45 (SS400)
- 2-EPDM 100x3x230

- 注) 1. 特記なき材質はすべてSUS304とする。
2. 排水装置はTSステンレス排水装置に準ずる。
3. SS400は全て溶融亜鉛メッキ
(特記なき場合は JIS H 8641 2種 HDZ55)
仕上げを行う。但し、ボルト類はHDZ35とする。
4. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し
耐食性向上の措置を講じる。
5. 現地調査にて寸法確定後製作する。